

鹿児島県立短期大学
地域研究所 叢書

日中両言語ブログによる
鹿児島観光情報発信

「鹿児島ピカリン☆プロジェクト」中間報告書

私も「ピカリン☆」の応援団

鹿児島県立短期大学

学長 種村 完司

「鹿児島ピカリン☆プロジェクト」は、いま鹿児島県立短期大学で、いちばん自慢できるホットで楽しい地域貢献の取り組みだ。

その中心を担ってくれている教員から、このプロジェクトの中身や進め方を聞いたとき、私のような頭の固い人間では考えつかない、時流にかなった斬新な発想に驚きそして感心した。本学は、南京農業大学と協定をむすんで、毎年数名の中国人留学生を受け入れているが、その留学生たちと本学の学生たちを主体にして、鹿児島の名所・景勝地、食べ物、文化などを堪能してもらおうと共に、彼ら自身によって、それらの魅力をブログで情報発信してもらおう、というのである。工夫された「ピカリン」という呼び名のうちにも、その心意気が大いに示されている。

この新しい試みは、留学生たちを快く出迎え、いろいろな地域に案内し、その土地のよさ・面白さを理解してもらおう、ということにとどまっていたこれまでの留学生歓迎方式を一変させた。こういう歓迎の仕方では、じつは留学生はいつまでたっても、「お客さま」の域を出ない。留学生自身が情報の能動的な発信者という立場にたってみて初めて、その地域の奥深い味わいやほんとうの面白さが発見できる。

しかも、暮らしも食べ物も、風土も文化も、中国と日本とではいろいろ違う。留学生たちはすでに県内 30 以上の観光地を訪れたり、イベントを体験したりしているが、それらをつづったブログの中の文章は、日本人がハッとするような、中国人ならではの印象やセンスに満ち満ちている。鹿児島にもこんな素敵な場所があったのか、というだけでなく、そういう風景や文化や食べ物が彼らにそれほどの感動を与えていたのか、ということ、あらためて読む者自身が気づかされる。

もちろん、このプロジェクトは、中国と日本との留学生交流・異文化交流の範囲にとどまっただけではない。留学生が発信している中国語と日本語の両言語による観光情報は、国内のメディアだけでなく、中国メディアにも注目されつつある。私の思うに、これまで鹿児島は全体として、自分の魅力のアピールに後れをとってきたし、あまり上手ともいえない。その点でも、中国人留学生の個性豊かな目・耳・手をへた鹿児島の魅力発信は、もっとも信頼できる、もっとも有効な、中国人観光客への情報提供になり、鹿児島への観光客誘致の切り札の一つとなるだろう。

私自身も、有望なこのプロジェクトの意義と実際の姿を学内外に広く訴えらるとともに、応援団の一人としていつまでもその継続を支援していきたいと思っている。

2012 年 2 月

プロジェクトに参加した留学生（南京農業大学から鹿児島県立短期大学に留学）

牟 思斉

万 佳楽

胡 佳妮

王 雨羚

王 錦

プロジェクトに参加した鹿児島県立短期大学の学生（順不同）

上園 歩美

渡邊 愛理

高田 美保

山口 依利奈

永見 毬

永田 恵

吉満 千恵

森田 育美

西 紗希佳

霧島 史織

高田 綾香

福田 優香

田村 美香

段 絵理

福元 るか彩

鶴田 美咲

西田 千比呂

俣野 由里

松崎 麻梨恵

藤田 知美

山口 茜

吉留 亜紀

前原 奈々

山脇 公子

大山 絵理香

江藤 智恵

内村 円

加藤 明日香

西村 まどか

篠原 珠美

柴垣 いずみ

平井 朋生

鶴川 晴那

千竈 志及

吉行 楓

平瀬戸 香恋

肥後 美沙希

米山 喜美子

前薗 聖奈

前田 桐子

今村 彩乃

前田 佳純

山下 麻衣子

紙屋 里奈

本村 実子

プロジェクトに参加した鹿児島県立短期大学の教員

岡村 俊彦（商経学科 教授）

福田 忠弘（商経学科 准教授）

楊 虹（文学科 准教授）

目次

鹿児島ピカリン☆プロジェクト 4つの視点 目的別ショートカット

第1章 序論

- 1-1 「鹿児島ピカリン☆プロジェクト」の目的およびその背景 1
- 1-2 日中両言語ブログによる鹿児島の情報発信モデルの概要 2

第2章 プロジェクトの立ち上げと仕組み

- 2-1 「鹿児島ピカリン☆プロジェクト」の名前の由来とメンバー 6
- 2-2 プロジェクトの背景（1）：外国人観光客の誘致 8
- 2-3 プロジェクトの背景（2）：鹿児島県における留学生数の推移 9
- 2-4 プロジェクトの背景（3）：注目されるブログの効果 12

第3章 多言語ブログ運営マニュアル

- 3-1 ブログ「中国留学生眼中的鹿児島」について 14
- 3-2 多言語対応の技術的課題と解決法 14
- 3-3 検索サイトへの対応 15

第4章 「鹿児島ピカリン☆プロジェクト」の展開と成果

- 4-1 「鹿児島ピカリン☆プロジェクト」の展開と特徴 17
- 4-2 プロジェクト実施における他団体との連携 20
- 4-3 ブログ「中国留学生眼中的鹿児島」のアクセス解析 23
- 4-4 中国における本事業の取り上げられ方：地方紙の重要性 24

鹿児島ピカリン☆プロジェクト 4つの視点

留学生の視点

- ・留学生が積極的に地域文化に接触し、体験する機会を設け、異文化交流をおこなうことで、より深い日本理解が進む。また、日中両言語を使うことにより、実体験に基づいた語学学習が可能となる。

鹿児島観光の視点

- ・中国人留学生による情報発信により、①中国人に対してわかりやすく、信頼されやすい、②長期的、継続的な情報発信が可能、③見落とされがちな観光地やイベントの紹介が可能となる。

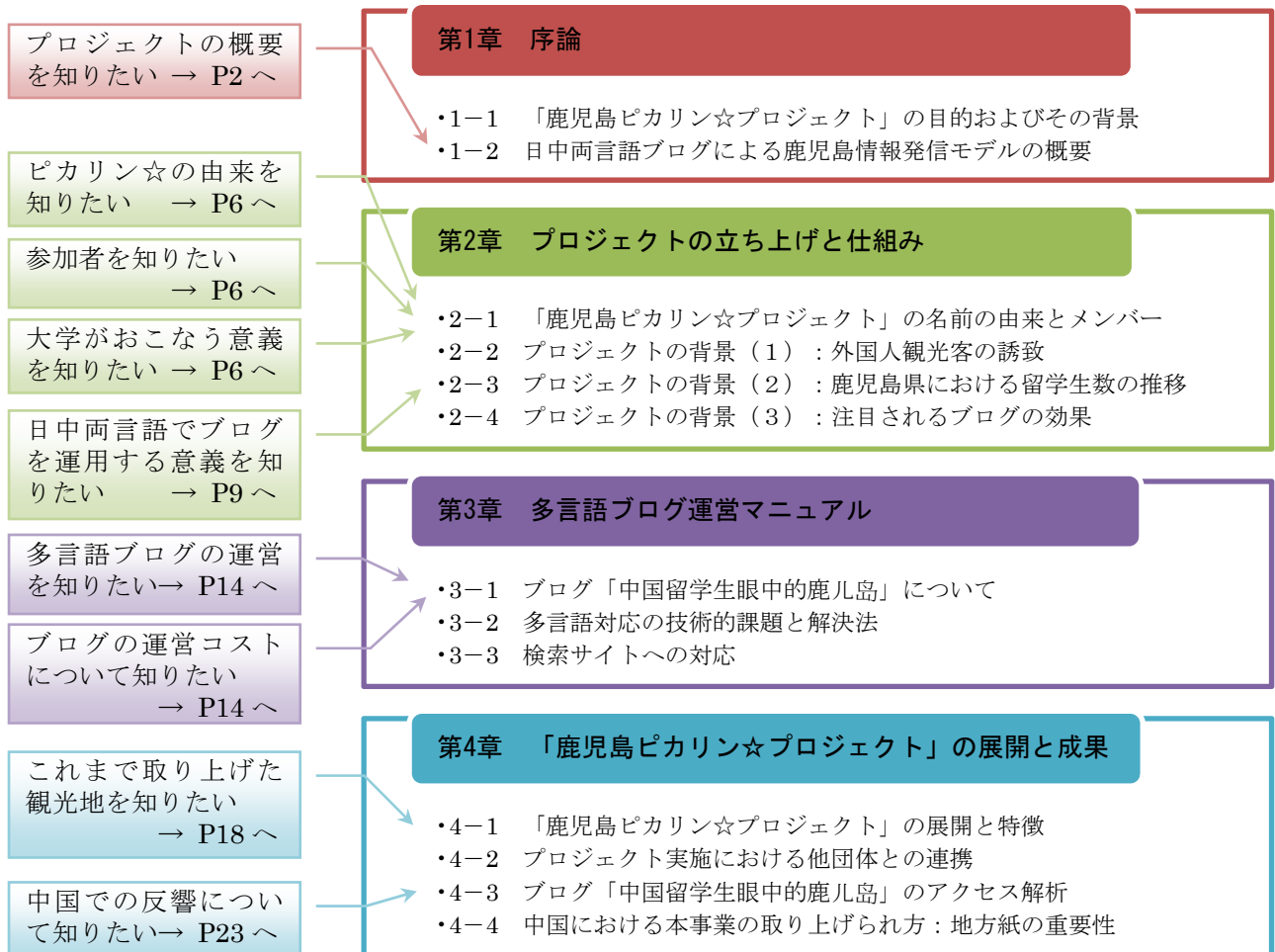
多言語ブログ運用の視点

- ・比較的使用が簡便とされるブログも、多言語に対応するには技術的課題があり、検索サイトへの対応にも工夫が必要である。コスト面も含め、多言語対応のブログ運用について、ノウハウの蓄積をおこなう。

学生教育の視点

- ・留学生とともにプロジェクトに参加することで、国際理解を深化させ、日本、鹿児島の文化も再確認する。また、観光地やマスコミに対応することで社会人としてのキャリア形成にも効果的である。

目的別ショートカット



第1章 序論

1-1 「鹿児島ピカリン☆プロジェクト」の目的およびその背景

地域の活性化のために、現在、多くの地域で観光誘致が積極的に行われている。例えば鹿児島県では、2011年3月12日の九州新幹線全線開業に伴い県外観光客の誘致が積極的に行われていると同時に、東アジア諸国（特に韓国、香港、中国）からの観光客誘致も行われている。鹿児島経済同友会も、県民所得を増やすには県外、特にアジア地域に収益源を求める必要性を提起した「鹿児島経済同友会、観光重視の総合戦略提言」をまとめ、2011年9月27日に公表した¹。県外及びアジア地域から観光客を呼び込むことにより、鹿児島県の農水産業、食品加工業、製造業、建設業、サービス業など、広範囲にわたる業種にその経済効果が波及し、県民所得の向上と同時に、雇用の増大が期待されている。多くの観光客が鹿児島を訪れることにより、鹿児島産の食材や焼酎が消費され、鹿児島の物産は土産物として購入され、宿泊施設や交通機関も利用されるので、鹿児島県内の物産を県外や外国で販売するよりも、より大きな経済効果が期待されるからである。

鹿児島経済同友会の提言では、2009年に750万人だった鹿児島への観光客数を、2012年から7年計画で250万人増加させ、3,721億円の生産を誘発させることが目標に掲げられている。この目標を達成するために、提言では4つの戦略が提示されている。すなわち、①県民所得の向上には観光振興が最も重要かつ有効という認識を官民、地域に浸透させ、観光を主眼に置いた取り組みを促す。②観光情報の発信力を充実強化するため発信のあり方を徹底的に見直す。③観光を主軸に据えた農商工連携を展開する。④各地に人材を育成し、地域ネットワークを構築する。

本報告書で紹介する事業は、2011年2月から鹿児島県立短期大学で行われてきた、「日中両言語による鹿児島の観光情報をブログにて発信する事業」（通称、「鹿児島ピカリン☆プロジェクト」）である。「鹿児島ピカリン☆プロジェクト」は、上述した鹿児島経済同友会が出した4つの提言の中にある、②「情報発信力の充実強化」及び、④「人材育成とネットワーク構築」についての新しい試みであると同時に、地域社会の中でこれまであまり注目されてこなかった外国人留学生（本事業では、特に中国人留学生に注目）に対する発想の転換を行い、留学生を地域における「人材」としてとらえる必要性を喚起するものである。発想の転換とは、留学生を主体的に行動する存在であると認識することであり、従来のように日本人が書いた日本語を中国語に翻訳させたり、日本人が伝えたいことや情報のみを伝達させるだけの存在とは見なさないことである。最近、韓国や中国からブロガーを招待して観光地を巡ってもらい、ブログを書いてもらうという情報発信の形態が取られているが、こうしたブロガーと比較して、留学生の日本語能力、日本に対する興味や関心、滞在期間の長さを考慮すると、留学生はより大きな役割を果たすことが可能である。さらに本事業では、中国人留学生に鹿児島の観光情報をブログに書いてもらっているが、その際に日本語と中国語の両言語を用いることに重点を置いている。なぜなら、日中両言語を使用することにより、日本人では気づかない当該観光地のセールスポイントや見逃していた魅力、さらには外国人でしか気づかないマイナスポイントや改善点を、中国人だけでなく日本人もブログにて共有できるからである。

そして今後、中国からの観光客を誘致し受入れ体制を構築するためには、人材の育成が急務である。中国人観光客に向けての魅力的な観光ルートの作成、効果的な観光情報の発信などをいかに行えるかが鍵となる。観光客の受入れを行う際に、鹿児島の観光地のことを全く知らない中国人を採用するよりも、鹿児島に長期間滞在し、鹿児島の文化や観光地について知識のある留学生を採用した方が、より包括的な観光振興を行うことができるはずである。また、留学生はブログを書くだけの存在ではない。たとえば卒業後に、（1）中国で中国人観光客に鹿児島の魅力をアピールできる旅行プランナーになったり、（2）鹿児島で中国人観光客向けの観光コースを企画したり、（3）鹿児島で中国人観光客の受入れを行ったり、とその活躍の場は今後より広がっていくことが予想される。東京や大阪に滞在していた留学生では即戦力となり得ない。鹿児島

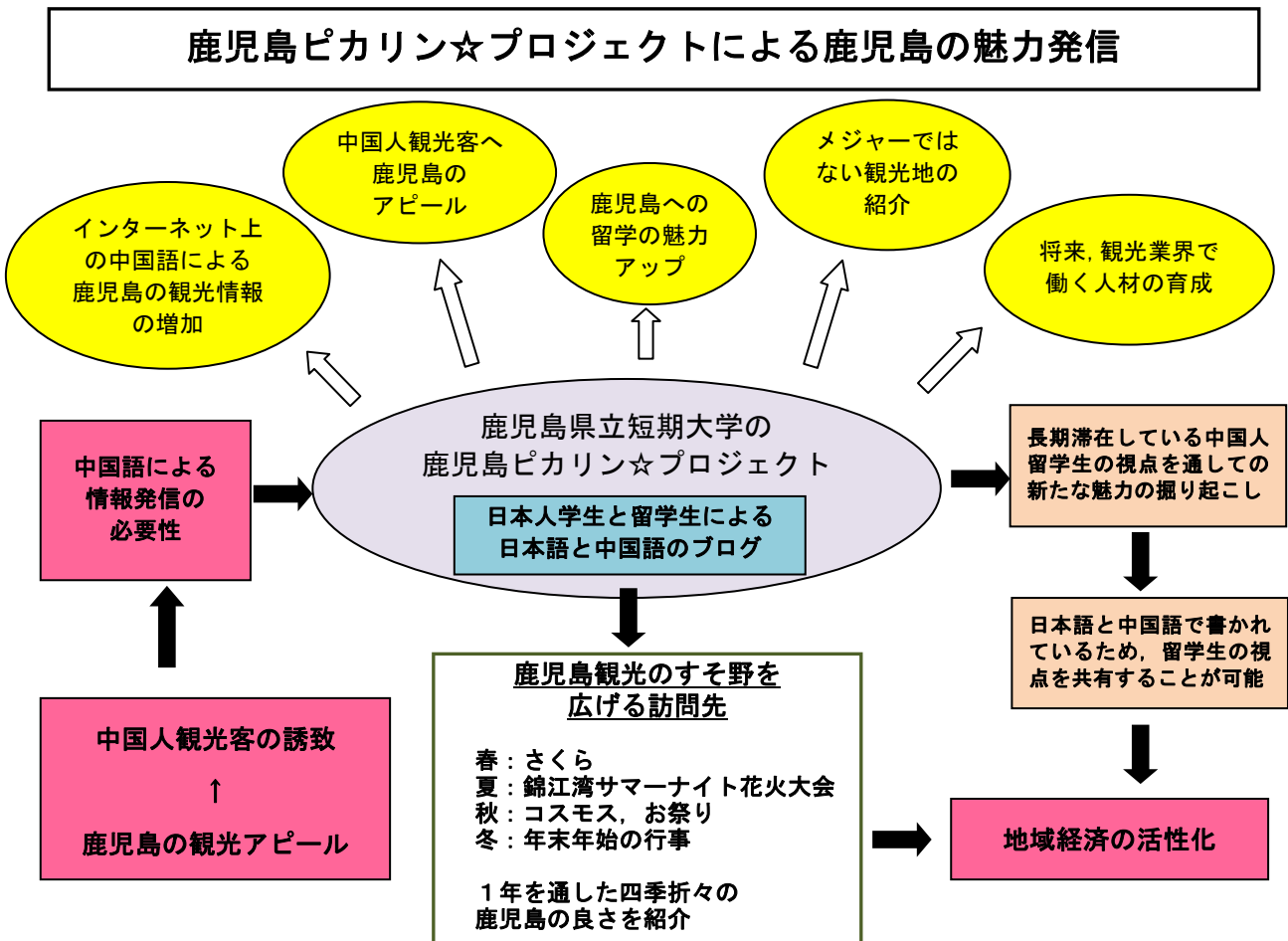
¹ <http://www.kagoshima-keizaidouyukai.jp/cgi-bin/news/file/1317099475-9506-1.pdf> (2011年9月27日閲覧)。この提言に係る資料は、<http://www.kagoshima-keizaidouyukai.jp/cgi-bin/news/file/1317099385-7040-1.pdf> を参照のこと。

の観光に寄与する人材は、鹿児島で育てる必要があるのである。

こうした点を考慮した事業が「鹿児島ピカリン☆プロジェクト」であり、本報告書はその事業報告だが、作成にあたっては本事業の汎用性のアピールを特に留意した。本事業で取り上げるのは、鹿児島での活動であり、ブログで取り上げる内容も鹿児島という一地域に限定されたものであるが、他地域でも本事業のモデルの導入は可能であり、日本、九州の魅力を総体としてあげていけるのではないかと、その汎用性にも期待している。鹿児島の観光振興を考えていく際に、鹿児島のみを訪問する観光客が劇的に増加するとは考えられず、日本全体や、九州地区への外国人観光客の総数が増えることが絶対条件となる。この点から、本報告書においては観光庁の「ビジットジャパン事業」や文部科学省の「留学生 30 万人計画」などの国の施策との関連も論じている。

1-2 日中両言語ブログによる鹿児島の情報発信モデルの概要

本事業は、鹿児島県立短期大学（以下、本学）の有志によって立ち上げられたプロジェクトである。本学は、中国の南京農業大学から交換留学生として、1年間滞在するものが年間で1名、半年滞在するものが4名(前期2名、後期2名)の、年間を通じて5名の留学生を受け入れている²。この交換留学生と本学の教員、学生が立ち上げたのが「鹿児島ピカリン☆プロジェクト」である。この事業は、鹿児島の観光地について日中両言語ブログにて情報発信していく事業であり、その概要図は以下の図1-1の通りである。



出所) 筆者作成

図 1-1 「鹿児島ピカリン☆プロジェクト」の概要図

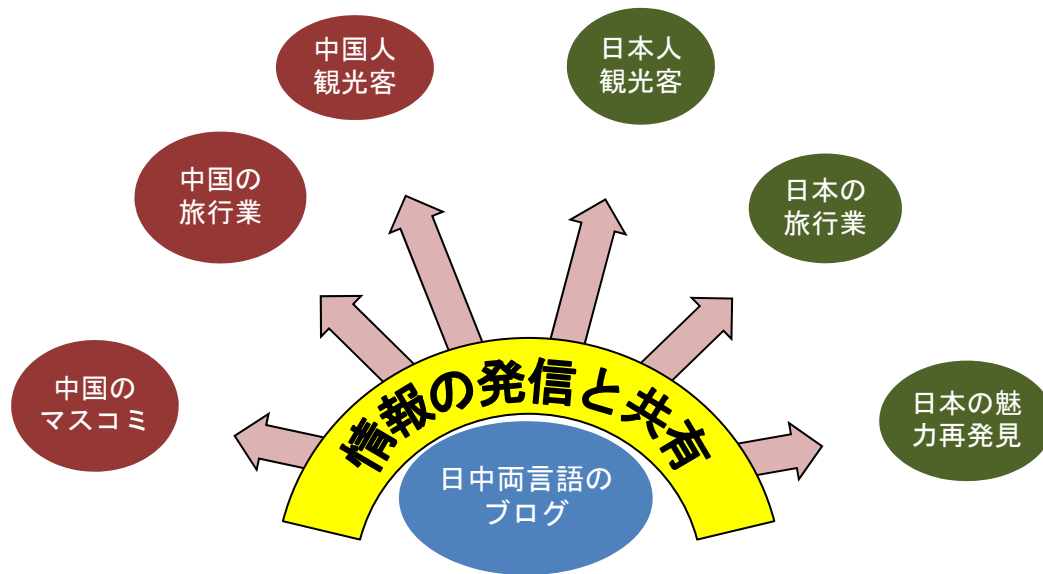
² 年度に応じて多少の増減あり。

最近、海外の観光客誘致に対してもブログによる情報発信が重視されている。ブログとはホームページ上に継続して簡単に更新され続ける Web ページのことで、個人的な日記やエッセイを書き込むことができ、携帯電話の内蔵カメラで撮影された写真などを簡単に掲載することができる。これはサービスの提供者による情報発信とは異なり、サービスの利用者がその感想を書き込むことから、ネット上の口コミ効果が期待されている。以下の図 1-2 が本事業によって運営されているブログの画面である。写真とともに日中両言語で、ブログに鹿児島島の観光情報を書き込むことにより、中国人だけでなく、日本人も閲覧可能である。このことにより、日本人では気づかない観光地のアピールポイントや見逃していた魅力、さらには外国人でしか気づかないマイナスポイントや改善点を共有することができる。図 1-3 に示したように、中国人の観光客、旅行業者、マスコミなどに対して情報発信すると同時に、日本人が情報を共有することにより、地元の人々や旅行業者が地域の魅力を再発見することが可能になる。



出所) <http://kagochina3.sblo.jp/> (2012年1月27日の記事)

図 1-2 「鹿児島ピカリン☆プロジェクト」のブログ

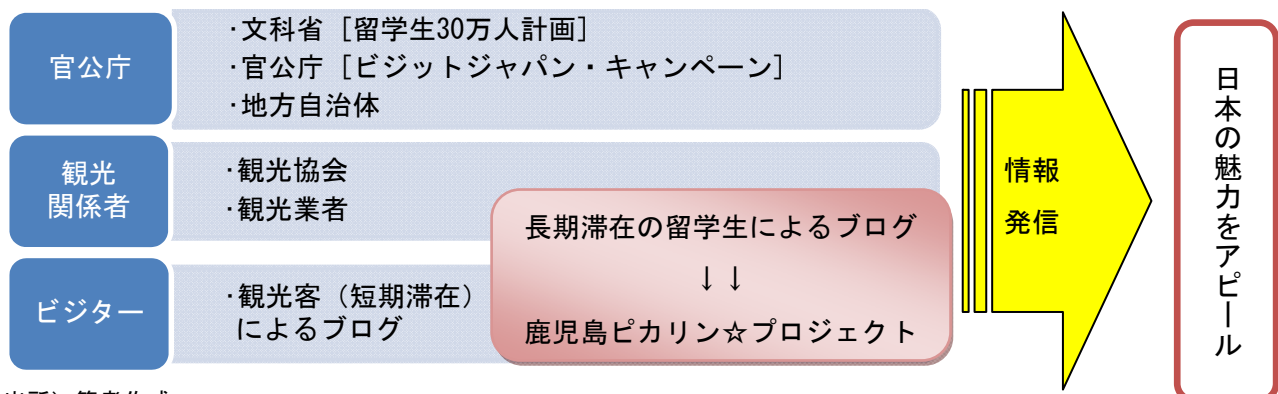


出所) 筆者作成

図 1-3 情報の発信と共有

「鹿児島ピカリン☆プロジェクト」は地方で行う事業だが、国の「新成長戦略」(2010年6月18日閣議決定)³で明らかにされている方向性と一致させることにより、よりその効果を高めることができると考えている。「新成長戦略」では「訪日中国人旅行者数の大幅な増加を図り、2020年初めまでに訪日外国人2,500万人、将来的には3,000万人の達成に向けた取組」(45頁)について言及されている。さらに文部科学省、外務省、法務省、厚生労働省、経済産業省、国土交通省などによる「留学生30万人計画」では、「アジア、世界との間のヒト、モノ、カネ、情報の流れを拡大する「グローバル戦略」を展開する一環として、2020年をめどに留学生受入れ30万人を目指す」⁴方針が示されている。

国と地域における取り組みのなかにおける、「鹿児島ピカリン☆プロジェクト」の位置づけを示したのが、以下の図1-4の概要図である。



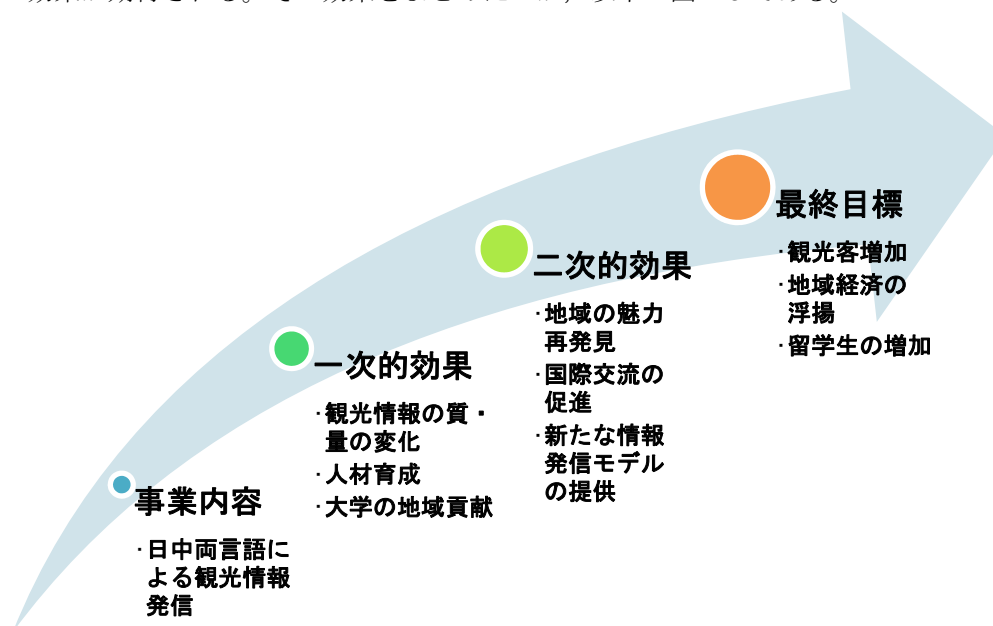
出所) 筆者作成

図 1-4 「鹿児島ピカリン☆プロジェクト」の位置づけ

³ 国の「新成長戦略-「元気な日本」復活のシナリオ」(2010年6月18日閣議決定)については、<http://www.kantei.go.jp/jp/sinseichousenryaku/sinseichou01.pdf> (2011年1月10日閲覧)を参照のこと。

⁴ 文部科学省高等教育局学生・留学生課『我が国の留学生制度の概要-受け入れ及び派遣』(平成22年度)38-39頁。

「鹿児島ピカリン☆プロジェクト」で鹿児島の観光情報を日中両言語のブログで発信することにより、以下の効果が期待される。①観光情報の量と質が変化する。情報量が増え、パソコンの検索サイトで情報がヒットしやすくなる。さらに、日本語や日本文化に深い関心を持つ長期滞在の留学生が、従来注目されることの少なかった情報や、四季折々に変化する情報を取り上げることで、情報の質的な変化が生じる。②同時に留学生のブログを通して、将来的に日本留学を希望する学生に対してより上質な情報を提供できる。③海外のマスコミが取材する際に検索する情報が増加し、鹿児島の観光についての番組を制作してもらいやすくなる。④将来、鹿児島の観光業に携わる人材を育成することにつながる。鹿児島で母国からの観光客を受け入れたり、母国に帰国後も、魅力ある旅行プランを作成したりと、地元貢献する外国人の人材を地元で育成することができる。⑤日中の国際交流が促進される。まだ観光地化されていない場所を実際に訪れることにより、ありのままの日本を理解することができる。⑥日本人学生の地元理解が深まる。本学学生の大半が地元高校の出身であるがゆえに、地元の良さを看過していることが多い。留学生の視点を通じて、地元の魅力を再発見することができる。⑦大学の地域貢献活動。⑧新しい観光情報発信モデルを他地域に対して提供することができる。⑨留学生の増加、観光客の増加によって、地域経済の振興につながることを期待される。など、多くの効果が期待される。その効果をまとめたのが、以下の図 1-5 である。



出所) 筆者作成

図 1-5 「鹿児島ピカリン☆プロジェクト」の効果

本事業を実施し、2011年4月にブログを開設してから2012年1月で10ヶ月が経つが、その間のアクセス数は表 1-1 の通りである。多言語によるブログの運営については第 3 章で、アクセス解析の詳細なデータについては第 4 章で言及している。

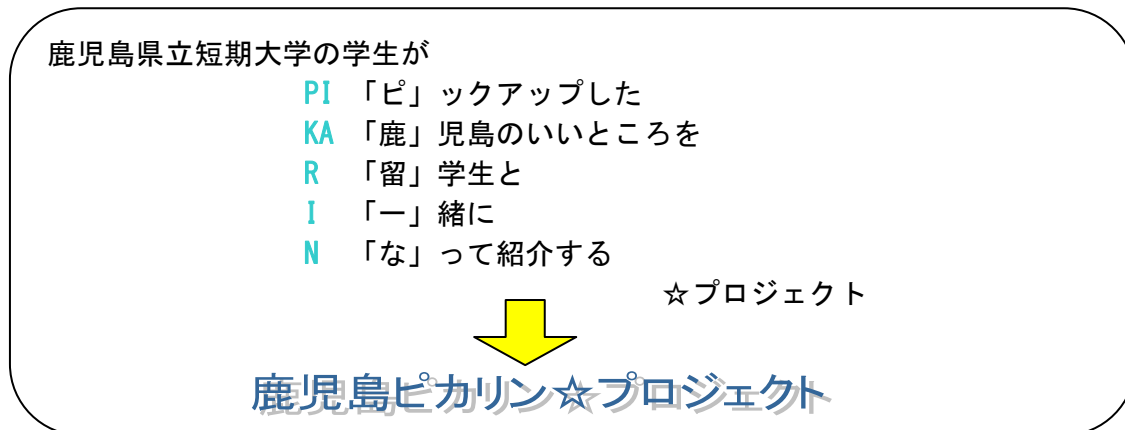
表 1-1 ブログのアクセス数

年月	2011年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2012年 1月	総計
アクセス数 (訪問者数)	279	1,043	1,136	1,086	1,171	879	1,061	1,109	1,142	1,113	11,022
ページビュー	1,084	3,960	4,095	3,686	3,327	2,393	3,772	3,517	3,189	3,264	32,287
中国からの アクセス数	10	102	99	47	47	21	28	13	10	12	389

第2章 プロジェクトの立ち上げと仕組み

2-1 「鹿児島ピカリン☆プロジェクト」の名前の由来とメンバー

本事業の名称は「鹿児島県立短期大学の鹿児島ピカリン☆プロジェクト」であるが、このプロジェクト名には以下の意味が含意されている。



「ピカリン☆」には、鹿児島の「ピカリン」と光る良さを紹介したい、小さな短大でもアイデア次第で「ピカリン」と輝くプロジェクトができるのではないかという思いも込められている。プロジェクト名は日本人学生が中心になってアイデアを出し合った。他の候補としては「鹿児島キラリ☆プロジェクト」「鹿児島キラリン☆プロジェクト」「鹿児島ピカリ☆プロジェクト」や、鹿児島のメジャーな観光地情報もマイナーなローカル情報も紹介するという趣旨から「鹿児島ピンキリプロジェクト」（鹿児島の情報をピンからキリまで紹介するプロジェクト）というアイデアもあったことを付け加えておきたい⁵。これらの候補のうち人気のあったプロジェクト名は「鹿児島キラリ☆プロジェクト」と「鹿児島キラリン☆プロジェクト」であるが、これらの名称は他団体が行う新規の事業と重なる恐れがあるため、将来的にも独自性を確保するために「鹿児島ピカリン☆プロジェクト」が採用された。

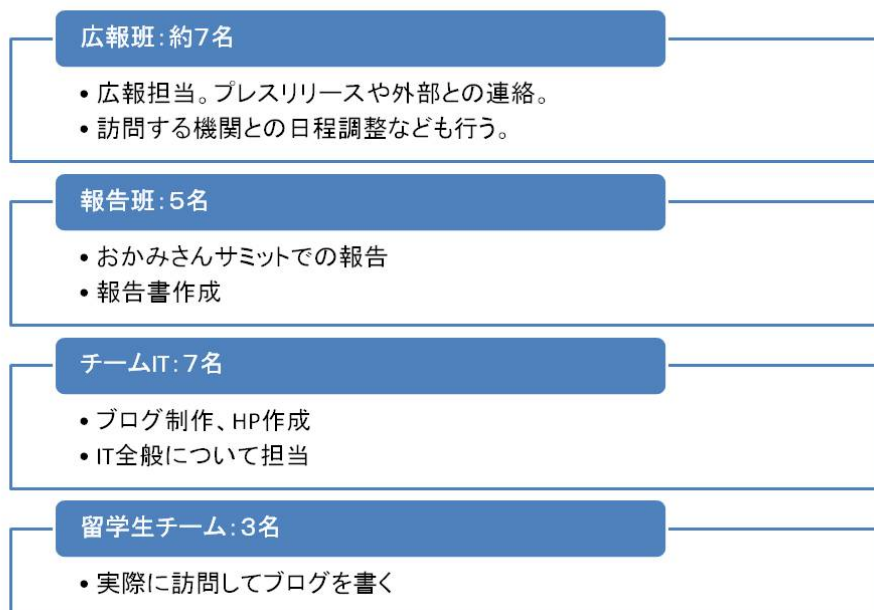
創設は2011年2月22日である(写真2-1)。創設メンバーは、(1)南京農業大学日本語学科から本学へ留学していた中国人交換留学生3名、本学の教員2名と日本人学生約15名であった。メンバーを固定した事業ではなく、「できる時に、できる事を行っていく」という形式が重視され、授業や就職活動の合間をぬってプロジェクトごとに柔軟に参加する体制とした。



写真2-1 本事業の立ち上げ（2011年2月22日）

⁵ 「鹿児島ピカリン☆プロジェクト」の発足は、「第19回全国商店街おかみさん交流サミット in 鹿児島」（2011年6月18日城山観光ホテルにて開催）に触発された部分があった。発足当時は、「OKG47」（おかみさん交流サミットの活動を支える鹿児島県立短期大学の女子たち、47都道府県に向けて：2011年2月発足）という団体名称を用いていた。本報告書を執筆している段階で、内閣府の自殺対策強化月間啓発ポスターに「あなたもGKB47宣言!」と書かれたキャッチフレーズが問題になっている。「GKB」とは「ゲート・キーパー・ベーシック」の略らしく、「47」は都道府県の数を示すという。本事業の前身「OKG47」と同じ発想である。しかし、人気アイドルグループを連想させる名称では限界があると早期に認識して、「OKG47」を発展的に解消して「鹿児島ピカリン☆プロジェクト」に名称変更した経緯がある。

事業のチーム分け



出所) 筆者作成

図 2-1 初期のチーム分け

活動初期に4つのチームを組織した(図2-1)。①広報班。事業の創設に合わせて鹿児島県庁にある記者クラブへの文書配布、マスコミからの取材などに対応するグループである。さらに留学生が現地を訪問する際に、訪問先との連絡窓口となった。②報告班。2011年6月8日に、「第19回全国商店街おかみさん交流サミット in 鹿児島」が鹿児島市内の城山観光ホテルにて開催された。その際に若者の視点から地域の活性化について事例報告をする機会があった。そこで、「つながる地域、つなげる人の輪」というタイトルでの報告を担当した。③チームIT。本事業はブログで鹿児島の観光情報を発信する事業であり、ITは必須の技術である。ブログやメーリングリストの作成など、ITを担当する部門だった。④留学生チーム。南京農業大学からの交換留学生によるチームで、広報班がアレンジした場所を訪問し、中国語と日本語でブログを作成する。同時に、6月8日のサミットにおいて報告班と協力して報告も行った(写真2-2, 2-3)。



写真 2-2 サミットで報告する中国人留学生



写真 2-3 報告班と中国人留学生

2-2 プロジェクトの背景（1）：外国人観光客の誘致

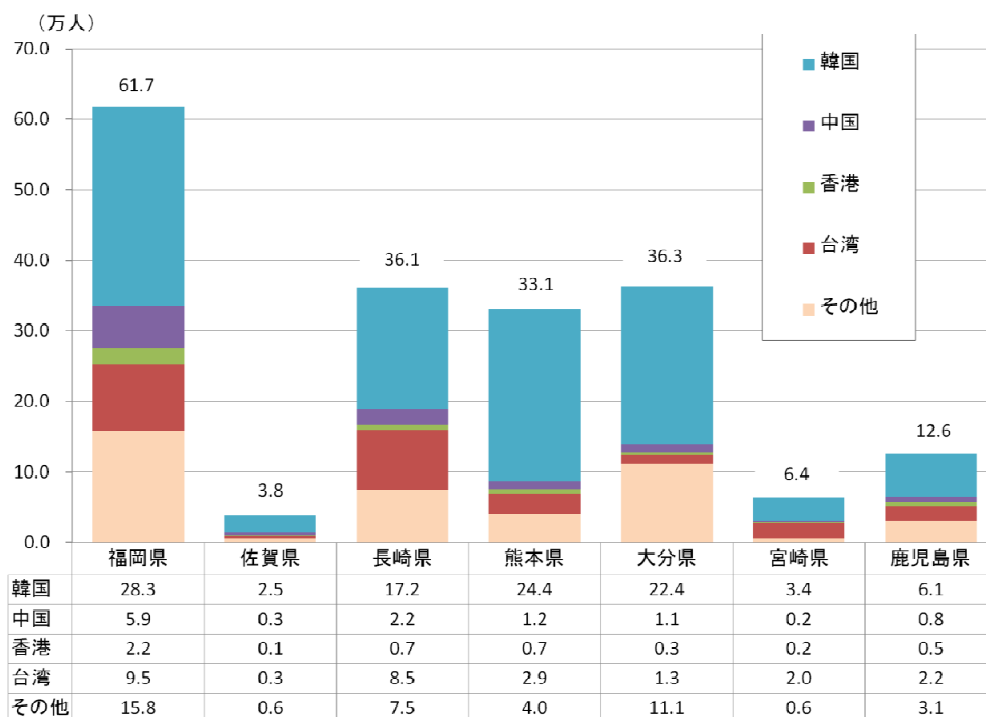
現在、政府も海外からの観光客誘致に力を入れている。2010年6月18日に閣議決定された「新成長戦略－『元気な日本』復活のシナリオ」では、「観光立国の推進」が目指され、2020年初めまでに日本を訪問する外国人を2,500万人に、そして将来的には3,000万人の達成に向けた取組を行うことが明示されている。同戦略では、とりわけ中国からの観光客誘致に力を入れるために、次のように言及されている。「急速に経済成長するアジア、特に中国は、観光需要の拡大の可能性に満ちている。例えば、中国から日本を訪問している旅行者数は年間約100万人、日本から中国を訪問している旅行者数は年間340万人（いずれも2008年ベース）と大きな開きがある。人口増加や経済成長のスピードを考えれば、中国を含めたアジアからの観光客をどう取り込むかが大きな課題である」⁶。

2000年9月から中国人の訪日団体観光旅行が解禁になり、北京の在中國日本国大使館においてビザ発給が開始された。2003年には上海、広州の総領事館でもビザが発給されるようになり、その後順次拡大され、2006年5月31日に瀋陽の総領事館、大連の出張駐在官事務所でも行われはじめたことで、中国にある日本大使館、領事館すべてでビザ手続きが可能となった。さらに2008年7月からは家族観光ビザ発給が開始され、翌09年7月からは個人観光ビザの発給も開始された。個人ビザ発給要件はその後も緩和され、2011年9月には、それまでの「一定の職業上の地位及び経済力を有する者」という文言から「職業上の地位」が削除され、「一定の経済力を有する者」と緩和され、滞在期間もそれまでの15日から30日までに延長された。

鹿児島県でも、東アジア各国との交流を増やす努力がなされている。2011年8月から、週2便だった鹿児島－上海の中国東方航空の直行便が週4便へと増便された。鹿児島と韓国の仁川空港間は、週2便の大韓航空が結んでいる。

さらに2012年3月からは鹿児島－台北間の定期便が就航する予定である。

では、実際の鹿児島県への外国人観光客数はどうなっているのだろうか⁷。国土交通省の「宿泊旅行統計調査（平成22年1月～12月）」をもとに「九州各県における外国人延べ宿泊数の構成」を示したのが図2-2である。このグラフからは、（1）鹿児島県に滞在（宿泊）する外国人観光客



出所) 国土交通省「宿泊旅行統計調査(平成22年1月～12月)」を元に筆者作成。

図2-2 九州各県における外国人延べ宿泊数の構成

⁶ 国の「新成長戦略－『元気な日本』復活のシナリオ」（2010年6月18日閣議決定）23頁。この「新成長戦略」については、<http://www.kantei.go.jp/jp/sinseichousenryaku/sinseichou01.pdf>（2011年1月10日閲覧）を参照のこと。

⁷ 鹿児島県への外国人観光客数については、国土交通省の「宿泊旅行統計調査」（<http://www.mlit.go.jp/kankochou/siryoutoukei/shukuhakutoukei.html>）に四半期ごとのデータが示されている。また、鹿児島県による独自の観光統計（<http://www.pref.kagoshima.jp/sangyo-rodo/kanko-tokusan/kanko/kankotokei/>）もある。本報告書では、九州各県との比較において、その傾向を把握するために図2-2を使用している。

が、九州のなかで3番目に少ないこと。(2)九州各県には韓国からの観光客が多いこと。(3)福岡、長崎などは台湾、香港からの観光客も多いこと。(4)九州各県において、中国人観光客の割合がまだ少なく、中国の経済成長に伴って、今後も中国人観光客が増えていく可能性があることが分かる。鹿児島県への観光客誘致を考えた際、韓国向けの情報と共に、中国、台湾、香港などの中国語圏の観光客へ向けた情報発信が必要になってくることが予想される。

福岡の外国人延べ宿泊者数は、鹿児島県の約5倍。熊本は鹿児島県の約3倍である。2011年3月に全線開業した九州新幹線を利用して、福岡、熊本を訪問する外国人観光客に、鹿児島まで足を運んでもらえる工夫が必要になってくるだろう。

2-3 プロジェクトの背景(2):鹿児島における留学生数の推移

すでに言及した政府の「新成長戦略」の「観光立国の推進」の項目では、魅力ある観光地づくりの他に、外国人留学生受入れのための環境整備にも言及されている。さらに文部科学省、外務省、法務省、厚生労働省、経済産業省、国土交通省などによる「留学生30万人計画」では、「アジア、世界との間のヒト、モノ、カネ、情報の流れを拡大する『グローバル戦略』を展開する一環として、2020年をめどに留学生受入れ30万人を目指す」⁸方針が示されている。2008年7月29日に出された「留学生30万人計画の骨子」の方策には以下の資料2-1のように言及され、ビジット・ジャパン・キャンペーンとの連携も目指されている。

方策

1. 日本留学への誘い ～日本留学の動機づけとワンストップサービスの展開～

我が国の文化の発信や日本語教育の拡大により、日本ファンを増やして我が国及び大学等への関心を呼び起こし、留学希望に結びつける。また、ウェブなどを通じ留学希望者に対し各大学等の情報を発信する。海外においては、在外公館や独立行政法人の海外事務所、大学等の海外拠点が連携して日本留学に係る各種情報提供、相談サービスを実施し、留学希望者のためのワンストップサービスの展開を目指す。

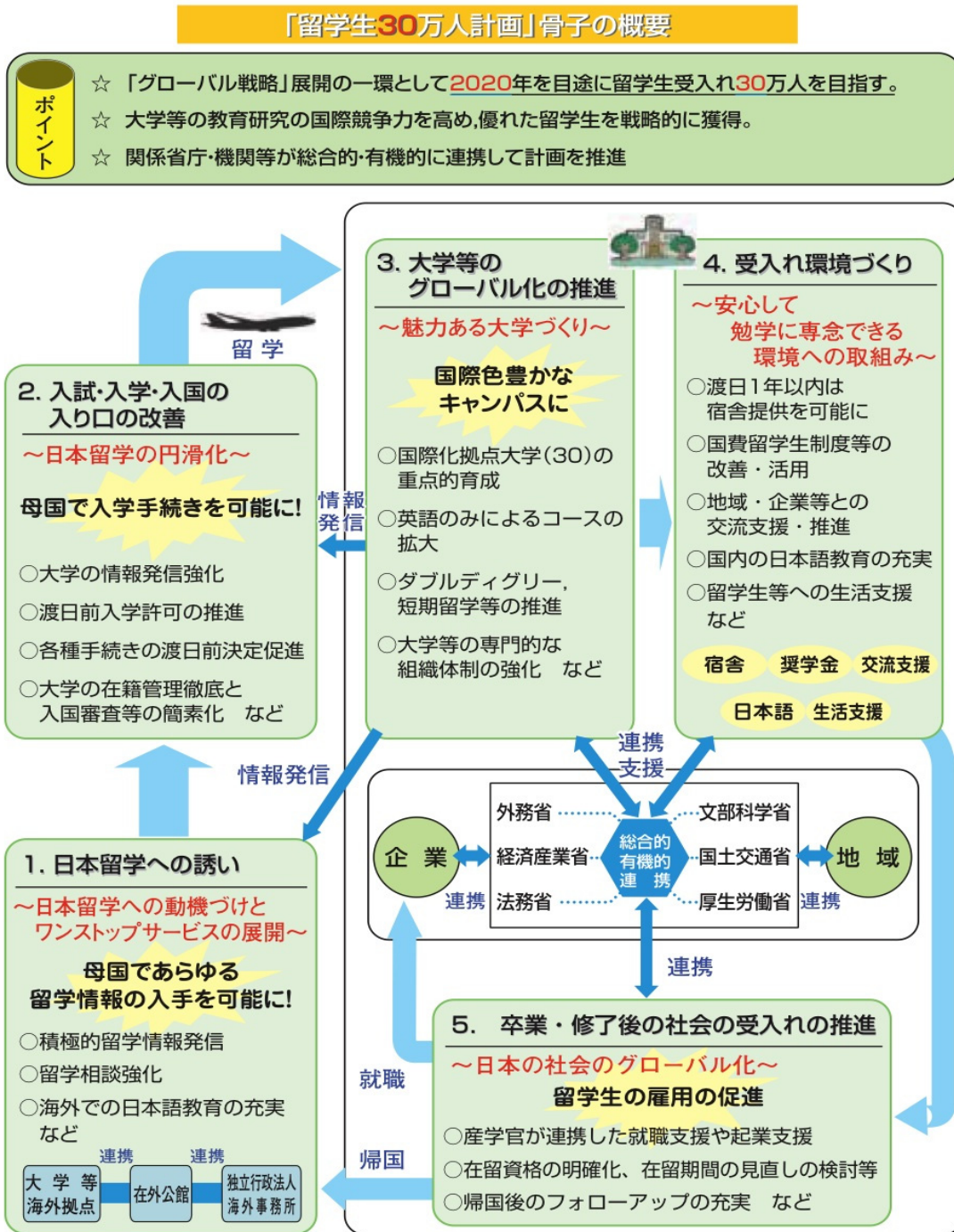
- ① 積極的に日本の文化、社会、高等教育に関し情報発信し、イメージ戦略としての日本のナショナル・ブランドを確立。
- ② 海外の大学等と連携して効率的に日本語教育拠点を増加させることにより、海外における日本語教育を積極的に推進。
- ③ 各大学等の留学情報発信や、日本留学フェア等多様な方法による留学情報の提供の取組を推進。
- ④ 在外公館、独立行政法人の海外事務所、大学等の海外拠点が連携して、海外において、日本留学に係る各種情報を提供。また、留学希望者への相談サービスを提供する機能を強化し、留学希望者のためのワンストップ(一元的窓口)サービスの展開を目指す。
- ⑤ ビジット・ジャパン・キャンペーンとの連携による情報発信の強化。 [下線は筆者による]

出所) 文部科学省高等教育局学生・留学生課『我が国の留学生制度の概要-受け入れ及び派遣』(平成22年度)38頁。

資料2-1 「留学生30万人計画」骨子のなかの方策

⁸ 文部科学省高等教育局学生・留学生課『我が国の留学生制度の概要-受け入れ及び派遣』(平成22年度)38-39頁を参照のこと。http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afiedfile/2011/12/12/1286521_4.pdf (2012年1月17日閲覧)。

さらに同骨子では、大学を卒業したり、大学院を修了した後の「留学生の雇用の促進」も提唱されている。そのために「産学官が連携した就職支援や企業支援」などが必要になってくる。「留学生 30 万人計画」の骨子の概要図を示したものが図 2-3 である。



出所) 文部科学省高等教育局学生・留学生課『我が国の留学生制度の概要-受け入れ及び派遣』(平成 22 年度) 40 頁。
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2011/12/12/1286521_4.pdf
 (2011 年 12 月 22 日閲覧)。

図 2-3 「留学生 30 万人計画」骨子の概要

外国人観光客増加のための戦略と同様に、外国人留学生増加のための戦略も今後必要となってくる。2009 年と 2010 年の日本への留学生数を表したのが表 2-1 である。中国からの留学生を見ると、2009 年には 72,766

人で全留学生の 58.8%を占め、2010 年はさらに約 6 千名増加して 79,082 人となり、全留学生の約 59.6%を占めていることが分かる。2 位の韓国を大きく引き離しており、中国人留学生向けの情報発信が重要なことが明らかである。

表 2-1 出身国・地域別留学生数

国(地域)名	2009 年 5 月		2010 年 5 月	
	留学生数(人)	構成比(%)	留学生数(人)	構成比(%)
中国	72,766	58.8%	79,082	59.6%
韓国	18,862	15.2%	19,605	14.8%
台湾	5,082	4.1%	5,332	4.0%
ベトナム	2,873	2.3%	3,199	2.4%
マレーシア	2,271	1.8%	2,395	1.8%
タイ	2,203	1.8%	2,360	1.8%
アメリカ	2,024	1.6%	2,230	1.7%
インドネシア	1,791	1.4%	1,996	1.5%
バングラデシュ	1,686	1.4%	1,683	1.3%
ネパール	1,476	1.2%	1,628	1.2%
その他	12,795	10.3%	13,210	10.0%
計	123,829	100.0%	132,720	100.0%

出所)2009 年 5 月の数値は、文部科学省高等教育局学生・留学生課『我が国の留学制度の概要—受け入れ及び派遣』(平成 21 年度版)10 頁、2010 年 5 月の数値は同資料(平成 22 年度版)6 頁のものを使用して筆者作成。

2007 年から 2009 年までの九州・沖縄各県の留学生数を表したものが表 2-2 である。2007 年と 2009 年と比較して、留学生数は約 2 千 6 百名増加し、それに伴い鹿児島を除く九州・沖縄の各県の留学生数も増加している。その中で唯一、留学生数が減少しているのは鹿児島県だということが分かる。

表 2-2 九州・沖縄各県の留学生数

県名	2007 年 5 月	2008 年 5 月	2009 年 5 月	2007-2009 年の増減数
福岡	6,017	6,613	7,578	1,561
佐賀	400	398	406	6
長崎	1,236	1,418	1,655	419
熊本	715	743	793	78
大分	3,587	3,965	4,147	560
宮崎	121	122	148	27
鹿児島	440	434	413	-27
沖縄	523	542	534	11
計	13,039	14,235	15,674	2,635

出所)2007 年および 2008 年 5 月の数値は、文部科学省高等教育局学生・留学生課『我が国の留学制度の概要—受け入れ及び派遣』(平成 21 年度版)12 頁、2009 年 5 月の数値は同資料(平成 22 年度版)8 頁のものを使用して筆者作成。

留学生に対しては、(1) 大学や大学院において学位取得など高度な教育、研究の機会を提供する場合と、(2) 「留学生 30 万人計画」骨子の方策のなかで示されているように、「我が国の文化の発信や日本語教育の拡大により、日本ファンを増やす」機会を提供する場合がある。短期大学で行っている「鹿児島ピカリン☆プロジェクト」で目指しているのは、(2) に関するものであり、鹿児島ファンを増やすというものである。短期大学である本学では、大学、大学院に比べ(1) について提供できることは少ないが、日本語教育

などの一部の分野においては貢献の実績がある。鹿児島では、毎年1月に鹿児島県国際交流協会主催の外国人日本語スピーチコンテストが行われているが、本学への交換留学生は予選を通過し本選へと進むことが多い。2012年1月21日に行われた「第17回外国人による日本語スピーチコンテスト」では、3名の交換留学生のうち2名が本選へと出場し、そのうちの1名は優秀賞（2位）を受賞した⁹。スピーチ練習には「鹿児島ピカリン☆プロジェクト」に参加する日本人学生も協力した。こうした教育を行うことは可能である。

外国向けに情報発信をする場合、観光客向けの情報以外にも、日本ファン拡大を目指すために留学生に向けた情報発信も求められてくる。ここに中国人留学生に着目し、留学生自身の言葉によって、鹿児島の観光情報、鹿児島での留学生生活をブログにて発信する意味が出てくる。4-2で後述するが、「鹿児島ピカリン☆プロジェクト」は、「中国の観光サイト、留学紹介サイト、ニュースサイト」の3つのジャンルのサイトで紹介されている。本事業は、観光と留学の情報発信を兼ねたプロジェクトであると言える。

2-4 プロジェクトの背景（3）：注目されるブログの効果

財団法人九州経済調査協会による『2011年度版九州経済白書 訪日外国人観光の新段階』は、九州への外国人観光客の誘致に関する歴史、現状、課題をまとめた貴重な白書である¹⁰。同白書では、「訪日外国人観光客がみる出発前の訪問地別情報収集源」として図2-4のデータをまとめ、東アジア諸国からの訪日観光客の情報収集行動の特徴として、インターネットを重視していることに言及している。

九州を訪問する外国人観光客のうち、個人のブログから情報を収集している観光客が多いことに注目する必要がある。ブログとはホームページ上に継続して簡単に更新され続ける Web ページのことで、個人的な日記やエッセイを書き込むことができ、携帯電話の内蔵カメラで撮影した写真などを簡単に掲載することができる。これはサービスの提供者による情報発信とは異なり、サービスの利用者がその感想を書き込むことから、ネット上の口コミ効果が期待されている。こうしたことから、各地で韓国や中国からブロガーを招待して、ブログで観光情報を発信する事業が行われている。国土交通省九州運輸局でも、2010年韓国からブロガーを100名招待して九州各地を自由に旅行してもらった¹¹。

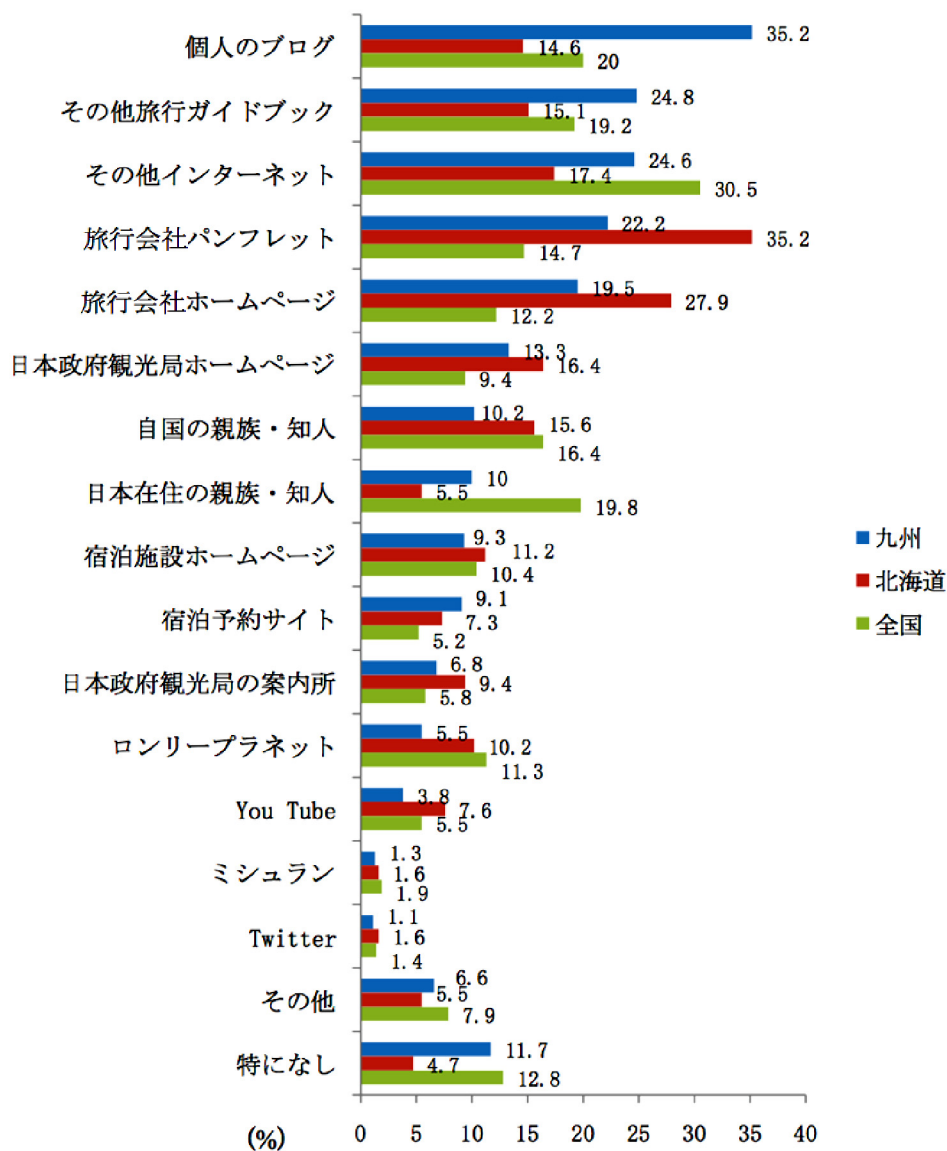
図2-4からもわかるとおり、東アジア諸国を中心に各国からの観光客を誘致するためには、インターネット上にサービスの提供者が出す情報を増やすことと同時に、サービスの利用者による、いわゆる口コミの情報を増加させる戦略をとることも重要である。

⁹ 優秀賞受賞のスピーチは動画サイトで公開されている。URLは<http://www.youtube.com/watch?v=4CKIyH82d9Q> を参照のこと。

¹⁰ 財団法人九州経済調査協会『2011年度版九州経済白書 訪日外国人観光の新段階』（財団法人九州経済調査協会、2011年）。同白書でも、7から8割の留学生が母国の家族に対して留学地域の情報を伝えていること、別府市の観光会社が留学生を採用し中国に事務所開設した事例、中国人留学生ブロガー13人が大分県内の観光情報を母国に発信している事例が取り上げられている。

¹¹ <http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/press/pdf/2010-1110-kokusai1.pdf> (2011年4月1日閲覧)。またこの事業によるアンケート結果については、<http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/press/pdf/2011-0329-kokusai.pdf> (2011年4月1日閲覧)。

訪日外国人観光客がみる出発前の訪問地別情報収集源



出所) 『九州経済白書 2011 年版 訪日外国人観光の新段階』 73 頁。

図 2-4 訪日外国人観光客がみる出発前の訪問地別情報収集源

第3章 多言語ブログ運営マニュアル

3-1 ブログ「中国留学生眼中的鹿儿岛」について

本プロジェクトの中核を担うツールはブログ「中国留学生眼中的鹿儿岛」である。当初は運営資金をもち、手探りで開始されたプロジェクトのため、なるべくコストをかけずにレンタルサーバにてブログを開設することにした。ただし、プロジェクトの性格を考え、広告が出るような無料サービスは避けた。

そこで「さくらインターネット」(さくらインターネット株式会社 <http://www.sakura.ad.jp>) のレンタルサーバサービスの「ライト」というプランを利用することとした。これは、①年間使用料が1,500円と格安である、②インターネット上の評価や筆者の利用経験から停止頻度が少なく、安定して使える、③ブログの設置、管理が容易である、といった理由による。使用可能容量は1GBであり、ブログの運用には十分であると考えられ(2012年1月現在で使用率は約13%)、今後、容量が不足する場合は上位サービス(スタンダードプラン:10GB, 5,000円/年)などへの移行も可能である。複数のブログ設置も可能であり、今回は参加学生用のブログも開設し、ウェブ上での情報交換もおこなっている。

2011年4月4日に鹿児島と中国を結ぶブログとして、「中国留学生眼中的鹿儿岛」(中国人留学生から見た鹿児島)というタイトルと kagochina3.sblo.jp という URL で運用を開始した。初期設定は情報系の教員でもある岡村がおこなったが、以後の運用はほぼすべて留学生が担当し、季節に応じたデザイン変更なども留学生自ら工夫を凝らしながらおこなっている。

3-2 多言語対応の技術的課題と解決法

日本ではすでに一般的になったブログであるが、携帯電話などからメールを通じて記事を投稿できる手軽さが普及の一因ともいえる。本事業では、日本語と中国語の両方を扱うことが当初の技術的課題となった。英語など文字数の少ない言語は、デジタルの世界(パソコン、携帯電話、インターネット)では1バイトの文字コードを使い、問題となることは少ない。しかし日本語や中国語など、文字数が多い言語の場合は2バイト(もしくはそれ以上)の文字コードが必要となり、さらにそれぞれの言語にも複数のコード体系が存在するため、入力、処理、表示のいずれかにおいて正しいコード処理をおこなえない、いわゆる“文字化け”が発生しやすくなる(表3-1)。

表3-1 主な文字コード

日本語	中国語
ISO-2022-JP	GB2312 (簡体字)
EUC-JP	Big-5 (繁体字)
Shift-JIS	
共通で利用可能な Unicode (UTF-8 など) も使われる	

多言語対応のウェブページ(ブログなど)ではこれらの文字コードが混在するので処理が複雑になる。

出所) 筆者作成

今回、利用したブログのサービスにおいても、基本的には Shift-JIS のみが対応していたため、サーバのシステム上で処理をおこなうメールからの投稿では中国語のコード変換が正しくおこなわれなかった。そのため、入力文字のコード変換処理をしないブラウザからの入力による記事投稿(パソコンからブログの管理画面にログインし、データを入力)をすることとなった。ただし、写真の加工や記事の事前確認など、パソコンによる作業がほとんどなので、ブラウザからの投稿に制限されても大きな問題とはなっていない。文字化けの問題は、閲覧者が記事に対して書き込む“コメント”の機能においても発生した。すなわち、日本語によるコメント入力に問題はないものの、中国語のコメント入力はサーバ処理において正しいコード変換がおこなわれず、文字化けしてしまうことである。こちらは投稿された(文字化けした)コメントをコード変

換ツールにより正しい文字コードに変換し、ブログの管理画面で上書きすることで回避することができた。

2バイト以上のコードを使う言語を複数扱う場合は、サーバ側の各種設定が必要である。サーバ OS そのものを利用者が設定できる IaaS (Infrastructure as a Service : サーバマシンとネットワークインフラを提供するサービス) であれば可能だが、国内の一般的なレンタルサーバのブログサービス、すなわち SaaS (Software as a Service : アプリケーションの機能を提供するサービス) で対応することは技術的にも困難である。中国語対応のブログを大きく発展させるには、後述する中国における検索サイト対応を考慮しても、中国国内のレンタルサーバを利用することが必要と思われる。しかし、日本国内のレンタルサーバに比べ割高で、例えば BohanIT (<http://www.bohan-it.com>) の場合、1.2GB のレンタルサーバが年間 2,600 円 (約 3 万円) と現在利用しているサービスの約 20 倍のコストがかかる。

3-3 検索サイトへの対応

ブログを含め、ウェブサイトは開設していることよりも、いかに閲覧されているかが重要である。サイトの閲覧は、①検索サイトからのアクセス、②URL (アドレス) の直接入力、③他のサイト内のリンク、④閲覧端末のブックマーク (お気に入り) からのアクセスの4種類の経路がある (表 3-2)。

表 3-2 ウェブサイトへのアクセス方法

経路	開設側の関与	
① 検索サイトからのアクセス	関与の度合い ◎	検索サイトにヒットしやすいサイト作成をすることで関与。
② URL (アドレス) の直接入力	関与の度合い ○	URL が書かれている紙媒体、QR コード等を広く配布することで関与。
③ 他サイト内のリンク	関与の度合い △	開設側の既存サイトにリンク作成は可能。別サイトへのリンク作成依頼も可能。
④ 閲覧端末のブックマーク	関与の度合い ×	閲覧者側の意図 (繰り返し閲覧) と操作によるので、開設側は関与できない。

出所) 筆者作成

上記③については鹿児島県立短期大学の公式サイト内の国際交流のページにリンクを作成したが、他に依頼をおこなったことはない (ただし、第 4 章で言及するように、新聞社や観光関連サイトなど、多数のサイトでリンクがはられている)。また、②は特におこなっていない。

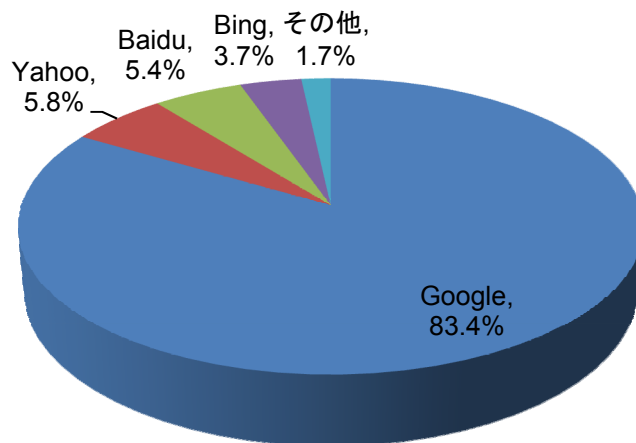
①の経路、すなわち検索サイトで上位にあげられる事は重要な課題である。これは SEO (Search Engine Optimization : 検索エンジン最適化) と呼ばれる手法であり、適切なキーワードやタイトルをページ先頭や meta タグ (サイトの文書情報を記入する箇所) に記述することなどがあげられる。内容が競合するサイトが少ない場合、適切な SEO により検索結果の上位に表示されることは比較的容易である (2012 年 1 月末現在、“中国 留学生 鹿児島” というキーワードで Google 検索すると本プロジェクトのブログが 2 番目に表示)。

しかし、本ブログのメインターゲットである中国については事情が異なる。中国における検索サイトは中国の百度会社が提供している Baidu (百度) が圧倒的なシェアを持ち、また、Google をはじめとした検索サイトを含むインターネットは中国政府の検閲下にある。Web 動向調査会社の米国 Net Applications (<http://www.netapplications.com/>) によると、2012 年 1 月の検索サイトを世界シェアで見ると、Google が 83.43% で 1 位、以下、Yahoo! が 5.82%、Baidu が 5.35% である (図 3-1)。中国の大手マーケティングリサーチ・コンサルティング会社である iResearch (<http://www.iresearch.com/>) によると、中国における 2011 年度第 3 四半期の検索エンジンシェアは Baidu が 77.7% で、Google が 18.3% である (図 3-2)。つまり、中国国内では Baidu 検索で上位にくるような SEO が重要となる。

Baidu の検索結果には独自方式が多く、Google とは異なる SEO が必要と言われている。本ブログでも Baidu への登録や中国語を含む meta タグの表記などできるかぎりの SEO はおこなっている。しかし Baidu において有効とされる①中国国内のサーバ (IP)、②中国のサイトを示す「.cn」を使用、③中国語文字コー

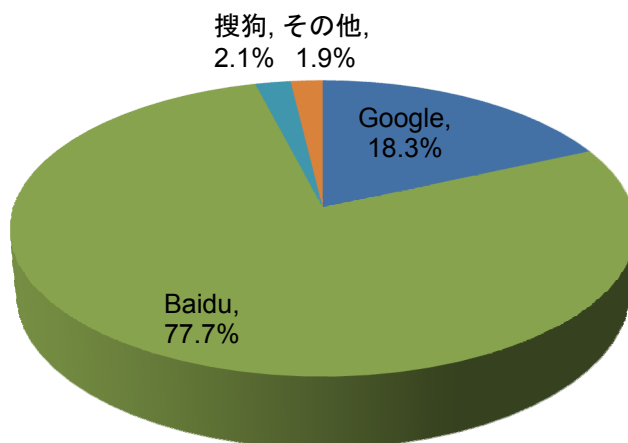
ドである GB2312 もしくは世界標準の UTF-8 を使用といった対策については、日本国内のレンタルサーバを利用する以上対応できない。Baidu.com のリンクから本ブログにアクセスした例は、ブログ開設以降 37 回あるが、いずれもブログのアドレス(kagochina3.sblo.jp)をキーワード検索したものであった。

多言語対応（文字コードの問題）と同様、中国国内のレンタルサーバの利用により、Baidu の SEO 対応も可能であると考えられる。本プロジェクトにおいても、コスト面を含め、今後検討をおこなっていききたい。



出所) 米国 Net Applications (<http://www.netapplications.com/>) のデータを元に筆者作成

図 3-1 2012 年 1 月の全世界検索エンジンシェア



出所) 中国 iResearch (<http://www.iresearch.com/>) のデータを元に筆者作成

図 3-2 2011 年第 3 四半期の中国における検索エンジンシェア

第4章 「鹿児島ピカリン☆プロジェクト」の展開と成果

4-1 「鹿児島ピカリン☆プロジェクト」の展開と特徴

「鹿児島ピカリン☆プロジェクト」は、中国の南京農業大学から鹿児島県立短期大学への交換留学生と教員、日本人学生が行っている事業で、ブログ「中国留学生眼中的鹿児島」サイトにて、鹿児島の観光情報を中国語（簡体字）と日本語にて発信している。以下の図4-1がブログの画面である。

中国留学生眼中的鹿児島
鹿児島県立短期大学の
鹿児島ピカリン☆プロジェクト
【中国人留学生が紹介する鹿児島】

2011年10月13日

そうめん流し！！

新的两名中国留学生来到了鹿児島，问道最想去的地方，竟然是去吃鹿児島最有名的流水面。
由于正值初秋10月，吃流水面的话可能会觉得有点冷，但是大家说不论冷不冷都要去吃流水面！
10月から新しく2名の留学生が鹿児島に来ました。私たちが鹿児島で一番行ってみたいと思っていた場所は、そうめん流しです。10月に入るので、少し寒いかとも思いましたが、そうめん流しを経験してきました。「そうめん流し」と「流しそうめん」の違いはご存知ですよね。鹿児島で生まれたのが「そうめん流し」です。

要鹿児島最有名的要数之前介绍过的唐船峡流水面了，但是由于这次时间不够，就选择了离市内比较近的慈眼寺流水面。
鹿児島で一番有名なのは唐船峡ですけど、今回は鹿児島市内にある慈眼寺公園のそうめん流しを食べに行きました。

2011/10/07

可能是周五中午的关系，也有可能是天气冷得关系，1点左右到达的时候，只有我们4个人而已。
10月で涼くなっていたし、金曜日のお昼ごろに食べにきたので、お客さんは私達4人しかいませんでした。

中国語

日本語

留学生が撮影した写真を掲載

出所) <http://kagochina3.sblo.jp/archives/20111013-1.html> (2012年1月27日閲覧)

図4-1 ブログ「中国留学生眼中的鹿児島」

本事業では、留学生をこれまであまり注目されてこなかった「人財」として捉えている。留学生と日本人学生、および教員がチームを組み、鹿児島の観光地を訪問して、留学生が感じたことをそのままブログに書いてもらう。ブログの内容について、教員や日本人学生がとくに指示を与えることはない。日本人が作成し

た文章を留学生に翻訳してもらおうというのにはありがちな発想であるが、本事業ではあくまでも留学生が主人公であり、日本人学生や教員はサポートをする存在に過ぎない。

これまでにブログで紹介した場所は、以下の通りである。

- ・ 南さつま市坊津町の鑑真記念館
- ・ 丸木崎展望台
- ・ 枕崎のカツオのたたき
- ・ 枕崎のなぎさ温泉
- ・ 花かごしま
- ・ 知覧
- ・ 日本最南端の駅、西大山駅
- ・ 鰻温泉
- ・ 吹上浜砂の祭典
- ・ 指宿
- ・ 唐船峡のそうめん流し
- ・ 吹上浜海浜公園
- ・ 南さつま市亀ヶ丘のコスモス畑
- ・ 妙円寺詣り
- ・ 指宿の篤姫生誕地
- ・ 指宿のたまたま箱温泉
- ・ 出水の武家屋敷
- ・ おかみさんサミットの報告
- ・ 阿久根のウニ井およびグランビュウ
- ・ 釜蓋神社
- ・ 番所鼻
- ・ 豊玉姫神社
- ・ いせえび荘
- ・ 薩摩英国館
- ・ 錦江湾サマーナイト花火
- ・ 指宿白水館の一泊体験
- ・ 川辺の仏壇
- ・ 慈眼寺のそうめん流し
- ・ 鹿児島都市農業センターのコスモス畑
- ・ 仙巖園、秋のお茶会
- ・ おはら祭り
- ・ 指宿花火大会

資料 4-1 ブログで取り上げた場所

長期滞在のメリットを活かすために、以下の諸点を大事にしている。

(1) 1年を通した四季折々の良さを取り上げるようにしている。春は桜、夏は花火、秋はお祭りやコスモスなどを取り上げている。例えば、夏の錦江湾サマーナイト花火大会は、年に一度しか開催されないイベントであり、鹿児島市の重要な夏の風物詩になっている。さらに秋には、コスモス畑で知られる南さつま市亀ヶ丘や、鹿児島市の都市農業センターを訪問しブログで取り上げた。コスモスは「秋桜」と漢字で書くことや、コスモスも桜に負けない美しさを持っていることなどが紹介された。日本の秋というと「紅葉」というイメージが外国人にはあるようだが、漢字を共有する中国語圏の観光客には「秋に咲く桜」などをアピール出来そうである。



写真 4-1 花火大会でTV取材を受ける留学生



写真 4-2 南さつま市亀ヶ丘のコスモス畑

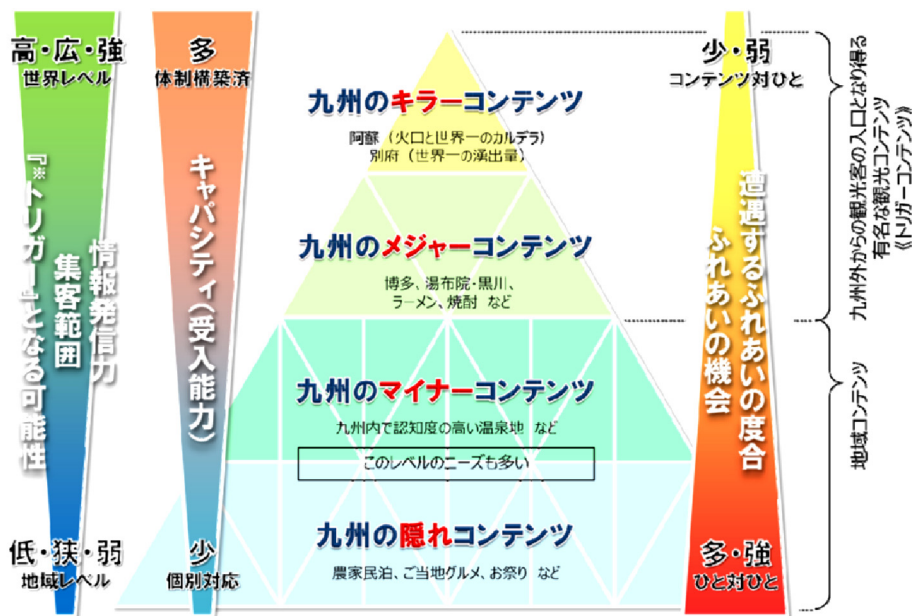
(2) 従来、あまり取り上げられることが少なかった場所や食べ物などを紹介している。情報の裾野を広げることと言っても良いかもしれない。多くの観光客が訪問する有名な場所は何もしなくても次から次へと

情報が発信されるが、それ以外の場所の情報についてはほとんど発信されることがない。そうしたあまり知られていないが、隠れた魅力を紹介することも本事業の目的である。さらにこうした隠れた魅力を紹介することは、観光客向けであると同時に、中国や台湾、香港のマスコミが行うであろう鹿児島の情報収集に活かされる可能性が大きいと考えている。例えば、指宿市に鰻温泉という温泉がある。明治維新後、佐賀の乱を起こした江藤新平が当時鰻温泉に滞在していた西郷隆盛を訪問した場所として有名である。ここでは地面から吹き出す蒸気を利用する「スメ」という竈が各家庭に備わっていて、温泉に入ったあとに「スメ」を利用したゆで卵を食べることができる。こうした内容はマスコミが取り上げるネタとしても十分魅力があるものと考えられる。



写真 4-3 鰻温泉にて「スメ」で作られたゆで卵

経済産業省九州経済産業局（環境テクノス株式会社受託）が出した『平成 22 年度観光関連産業育成事業（観光関連産業における経営力強化事業）報告書』では、情報発信力が高く、集客範囲が広く、さらに受入能力も高い観光地を「キラコンテンツ」として、その逆を「隠れコンテンツ」と呼んでいる。以下の図 4-2 がその概念図の引用である。本事業では、同報告書で「隠れコンテンツ」「マイナーコンテンツ」と呼ばれている場所の情報を発信し、情報の裾野を広げることを目指している。



出所) 経済産業省九州経済産業局委託（環境テクノス株式会社受託）『平成 22 年度観光関連産業育成事業（観光関連産業における経営力強化事業）報告書』（2011 年 3 月），28 頁。

http://www.kyushu.meti.go.jp/report/1108_service_kanko/110803_service_kanko.pdf（2012 年 1 月 27 日閲覧）

図 4-2 九州における観光コンテンツのレベルと特徴

(3) 中国にはないもので、鹿児島県の地域的特性を活かした場所などを紹介するように心掛けてきた。この点は当然のように考えられるが、鹿児島県民では当たり前過ぎて魅力として気づかない場合が多く、「よそ者」の視点を借りないと発見できない場合が多い。例えば、世界地図を見た場合、中国の西側には海がない。したがって、海に沈む夕日を実際に見る機会は少ない。吹上浜海浜公園にはサンセットブリッジがあり、そこから海に沈む夕日を見ることができるが、留学生にとっては劇的に見えるとのことであった。さらに、鹿児島にはきれいな湧水を利用してそうめんを食べる、「そうめん流し」がある。中国では生水を飲む習慣がなく、衛生上、生水で洗った野菜をそのまま食べられないため必ず加熱して食べる。中国人留学生にとって、「そうめん流し」のビジュアル的効果もさることながら、湧水の中にそうめんを入れて、それをそのまま食べるというのは初めての経験になる。豊かな湧水、それ自体が観光資源であることに気づかされる。



写真 4-4 留学生に好評のそうめん流し



写真 4-5 甕島の調査（奥は「ナポレオン岩」）

4-2 プロジェクト実施における他団体との連携

本事業の実施にあたって、常に連携している団体は存在しない。しかしこれまで2回招聘されて、留学生および日本人学生が現地を訪問することがあった。

一回目は、南九州市観光協会からの「雑誌記者等招聘事業」への参加である。2011年7月8～10日の三日間、南九州市の釜蓋神社、知覧武家屋敷、いせえび荘、番所鼻、薩摩英国館、タツノオトシゴハウスなどを案内してもらおうと同時に、豚の飼料にお茶とサツマイモを混ぜて育てた「茶美豚（チャーミートン）」、伊勢エビ料理、卵かけご飯などを提供していただく機会があった。豚に「茶美豚」という名前がついていたことには驚いたようである。このように地元の専門家から直接説明を聞くことによってその場所ごとの文化をより深く理解することができ、現地の人々と触れあえる機会があり、日中の文化交流にもなっている。さらに事業終了後、南九州市知覧観光協会と南九州市役所のホームページでも、本事業のことが取り上げられている（図 4-3、4-4）。



写真 4-6 南九州市観光協会の方たちと学生



写真 4-7 南九州市の釜蓋神社を訪問した留学生

HOME > トピックス > 鹿児島県立短期大学 鹿児島ピカリンプロジェクト に紹介して頂きました！

トピックス

■ 鹿児島県立短期大学 鹿児島ピカリンプロジェクト に紹介して頂きました！

更新日時：2011年07月15日 10時14分44秒

4月1日から新たに発足した「南九州市観光協会」において、九州新幹線全線開業効果による、新たな誘客活動の取り組みとして、関西、中国地方を中心に旅行雑誌等を扱う記者9名をご招待し、知覧の茶畑、豊玉姫神社水車からくり、ちらん人形博物館、薩摩英医館などを紹介させて頂きました。

地元ではある程度認知があるものの、全国的にはまだまだあまり発信が出来ていない場所について、この機会に様々な雑誌に掲載されることを期待しております。

鹿児島県立短期大学の学生による「鹿児島ピカリンプロジェクト」では、現在「中国人留学生を紹介する鹿児島」をテーマに掲げ鹿児島の魅力を発信する活動を行なっております。

今回は、雑誌記者の方々と同じく、留学生3名にも参加頂きました。

どのような記事になるのか楽しみです。。。

鹿児島ピカリンプロジェクト
中国留学生眼中的鹿児島 <http://www.kagochina3.sblo.jp/>



出所) <http://www.chiran-navi.com/topics/2011/post-18.html> (2012年1月27日閲覧)

図 4-3 南九州市知覧観光協会の HP

南九州市観光協会 雑誌記者招聘事業を開催いたしました！

鹿児島県立短期大学
「鹿児島ピカリンプロジェクト」に紹介して頂きました！



4月1日から新たに発足した「南九州市観光協会」において、九州新幹線全線開業効果による新たな誘客活動の取り組みとして、関西、中国地方を中心に旅行雑誌等を扱う記者9名をご招待し、豊玉姫神社、ちらん人形博物館、薩摩英医館、甲斐広島の体験工場などを中心に市内観光施設を紹介させて頂きました。

地元ではある程度認知があるものの、全国的にはまだまだあまり発信が出来ていない場所について、この機会に様々な雑誌に掲載されることを期待しております。

また、鹿児島県立短期大学の学生による「鹿児島ピカリンプロジェクト」では、現在「中国人留学生を紹介する鹿児島」をテーマに掲げ鹿児島の魅力を発信する活動を行なっております。

今回は、雑誌記者の方々と同じく、留学生3名にも参加頂きました。

早速HPへアップしていますが、最終的にどのような記事になるのか楽しみです。。。

鹿児島ピカリンプロジェクト
中国留学生眼中的鹿児島 <http://www.kagochina3.sblo.jp/>



出所) <http://www.city.minamikyushu.lg.jp/cgi-bin/hpViewContent.cgi?pID=2011071511802&pLang=ja> (2012年1月27日閲覧)

図 4-4 南九州市役所の HP



写真 4-8 指宿白水館の夕食（左）と敷地内の展望

二回目は、指宿白水館¹²からの招待である。同館のご厚意で、留学生2名、日本人学生3名をご招待いただき、最高級の部屋に1泊滞在させていただくと同時に、素晴らしい食事をご提供いただいた。また同館には、鹿児島の伝統文化のコレクションを展示する「薩摩伝承館」もあり、鹿児島の伝統文化についても理解を深めることができた。同館の旅館としてのグレードを考えると、本事業の経費では宿泊できない場所であり、ブログでも取り上げることはできなかったであろう。同館には感謝したい。留学生たちも普段できない経験ができたようで、ブログには写真4-8とともに以下のような感想を書いている。

食物精美得像工艺品，味道也是好的没话说 食べ物は見た目がよくて芸術品みたい、味も涙出るほどおいしかった 去夏威夷太远了，去白水馆吧~0(∩_∩)0 哈哈~ ハワイに行くのは遠いから、白水館に行けば~0(∩_∩)0

¹² 指宿白水館については公式ホームページ(<http://www.hakusuikan.co.jp/>)を参照のこと。

最後に、社団法人鹿児島観光連盟は鹿児島の観光情報を発信しているが、そのHPはすでに多言語化されていて、日本語の他に、英語、韓国語、繁体字（台湾）、簡体字（中国）の多言語で観光情報が発信されている。図4-5は簡体字のページだが、トップページに「最新消息（最新情報）」があり、最新の情報が更新されているが、ここで本事業のブログが紹介されている。こうしたHPで取り上げられることにより、本事業のブログを中国人観光客が目にする機会が増えることが期待できる。



出所) <http://www.kagoshima-kankou.com/cn/> (2012年1月27日閲覧)

<http://www.kagoshima-kankou.com/cn/whatsnew/2012/01/post-23.html> (2012年1月27日閲覧)

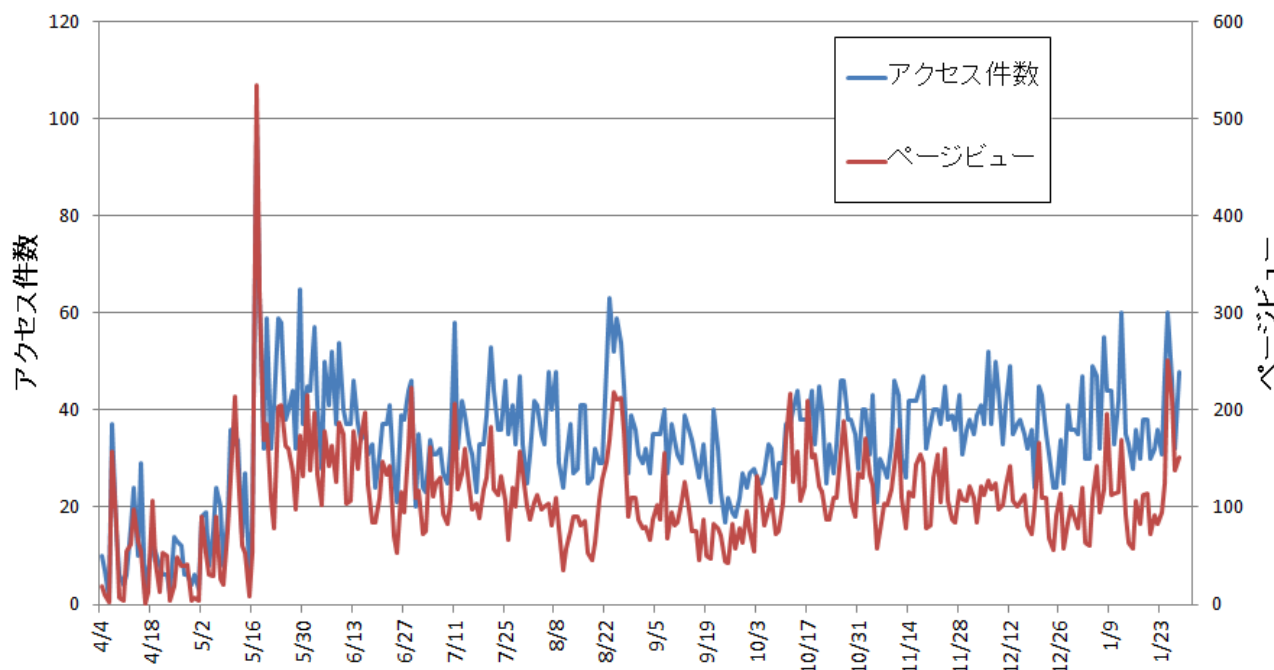
図4-5 鹿児島観光連盟簡体字のHP（左）、ブログ（纓温泉）の紹介（右）

4-3 ブログ「中国留学生眼中的鹿儿岛」のアクセス解析

本事業における最終的な目的は、本ブログの情報が閲覧されることにより、鹿児島島の情報を増やし、鹿児島島への観光客、留学生の数が増加することである。そうした観点から見た場合、事業の評価としては以下の2点が重要になってくる。(1) 本事業によるブログへのアクセス件数、特に中国からのアクセス数がどれくらいあるのかという点、(2) 本事業が中国でどのように取り上げられているのかという点である。

中国語と日本語でブログを書いているので、中国の検索サイトでヒットさせるようにする必要があるが、中国で一番利用されている検索サイト **Baidu** (百度) は特殊で注意が必要である (詳細は第3章を参照)。

本事業におけるブログへのアクセス解析を行った結果が以下のグラフである。



出所) 筆者作成

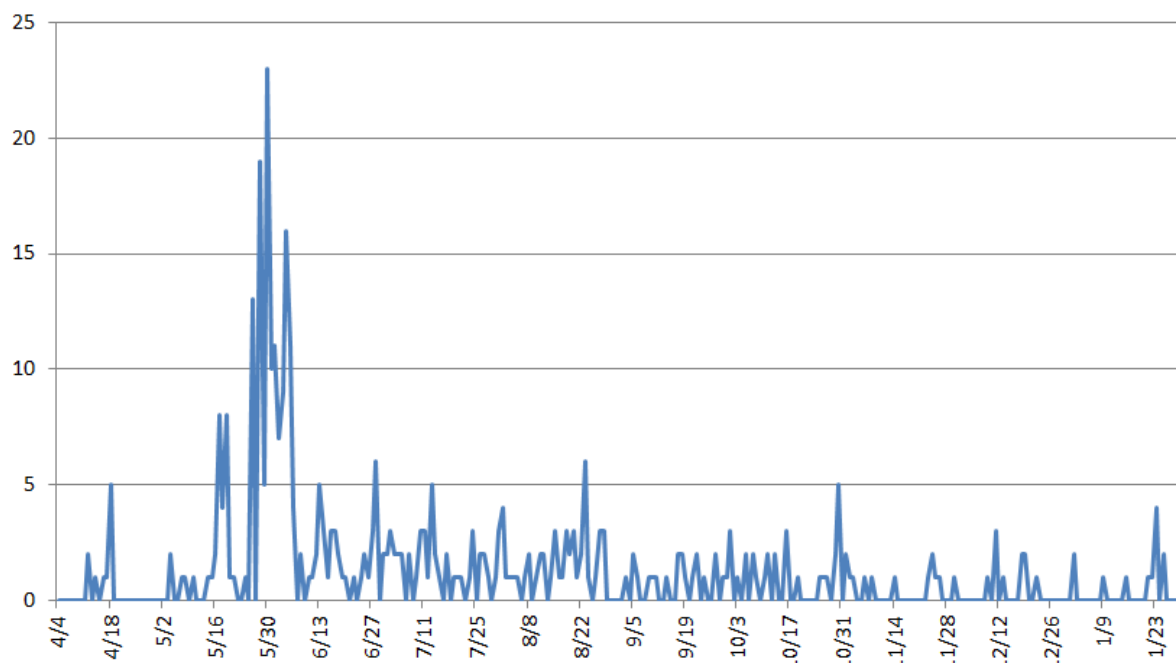
図 4-6 1日あたりのアクセス件数、ページビュー (2011/4/4~2012/1/28)

2011年4月4日開設からしばらくは関係者のアクセスが中心と見られ、4月の1日平均アクセス数は10件程度であった。5月17日に鹿児島島の有力新聞紙である『南日本新聞』で紹介記事が掲載されると、99アクセス(535ページビュー)と飛躍的にあがり、以後30~60アクセスで推移している。8月後半にもアクセス数があがっている時期があるが、これは南日本放送という地方テレビ局に留学生が花火大会(錦江湾サマーナイト花火大会)の見物について取材を受けた様子が放映(8月25日)され、そこでプロジェクトの紹介も併せて放映された影響である。新聞やテレビといったマスコミの影響は大きいといえる。9月後半は若干落ち込んでいる時期があるが、これは留学生3名のうち2名が留学期間を終え帰国した時から、次の留学生が10月に来日し、活動を再開するまでの期間と重なる。

次に中国からのアクセス状況について確認してみる。アクセス解析ツールの制限により、アクセス元のIPアドレスなどから国名を分析することはできないが、どのサイトのリンクからアクセスがあったかの解析が可能であった。そこで、以下のリンク元を中国関連のサイトとして、カウントした。

- ・ Baidu.com : 中国国内の検索サイト。本ブログのアドレスをキーワードとして検索されている。
- ・ Google.com : グーグルの検索のうち、中国語で検索された検索結果からのリンク
- ・ Google.com.hk : 香港のグーグルサイト

- ・ Google.com.tw :台湾のグーグルサイト
- ・ QQ.com :中国最大手のメッセージサービスのサイト
- ・ その他, cn (中国のドメイン) を含むサイト (sina.com.cn など) や中国語で書かれたサイト (baidu.jp や google.co.jp など日本国内の検索サイトは含まれない)



出所) 筆者作成

図 4-7 1日あたりの中国関連のリンクからのアクセス件数 (2011/4/4~2012/1/28)

第 3 章で言及したとおり, 中国における検索に対応するにはさまざまな課題があるが, 5 月以降, コンスタントにアクセスがある。特に 5 月後半から 6 月後半にかけて, 件数があがっているのは, 5 月 17 日の『南日本新聞』の記事が, 後述するように中国関連サイトで多数紹介された影響によると思われる。

これら以外にも, アドレスの直接入力やブックマークによる中国からのアクセスがあったと予想される。

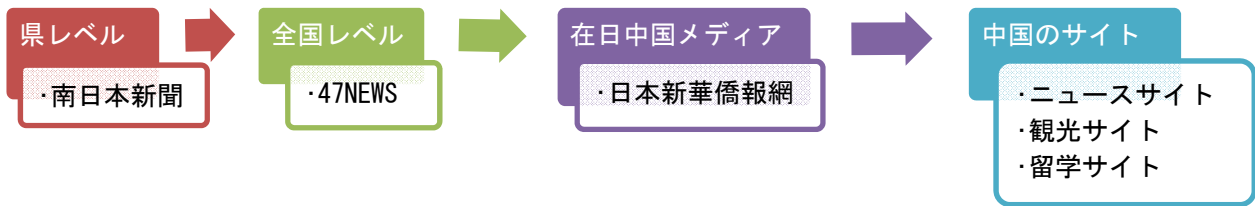
4-4 中国における本事業の取り上げられ方: 地方紙の重要性

本事業は, 中国の 4 つのジャンルのサイトで紹介されている (2011 年 12 月 22 日閲覧)。①ニュースサイト (24 サイト), ②観光紹介サイト (10 サイト), ③留学斡旋サイト (18 サイト), ④個人のブログ (5 サイト) で本事業が紹介されている。それぞれのサイト名と URL については, 本章の最後にまとめてある (資料 4-2)。

ここで注目するのは, 本事業を紹介している中国のサイト数ではなく, 中国国内における情報の伝播の仕方である。上述した, ①ニュースサイト, ②観光紹介サイト, ③留学斡旋サイトでは, すべて一つの情報源から出された記事が引用され紹介されている。引用に際して, 異なった写真を使用しているケースもあるが, 記事の内容はすべて同じである。そして, 記事のなかに個人名が出てくるが, そうした個人は中国メディアの取材を受けていない。

マスコミによる取材の有無, 記事の内容, 情報の伝達の経路を見ていくと, 図 4-8 のようにまとめることが可能である。まず, 鹿児島地方紙『南日本新聞』の記者が本事業を取材し, 紙面に記事を書くと同時に電子版にも記事がアップされる。この記事が, 全国 47 都道府県・52 参加新聞社と共同通信の内外ニュース

を扱う、「47NEWS」¹³にアップされ、その記事を見た在日中国メディアがその HP で紹介する。この記事
を、中国の①ニュースサイト、②観光サイト、③留学サイトが引用するという流れである。



出所) 筆者作成

図 4-8 地方紙から中国サイトへの流れ

次に記事の内容が正確に伝えられているかが問題になるが、残念ながら『南日本新聞』の記事の内容と、
在日中国メディアがアップした中国語の記事ではその内容にかなりの相違がある。中国メディアでは記事
中の個人や地方紙の記者に直接聞き取りをするといったことは行われていない。

こうした情報伝達の流れを見ていくと、地方紙に記事が掲載され、「47NEWS」に取り上げられることが
重要になってくるのが分かる。一般的には、海外への宣伝に対して地方紙の役割は限定的だと考えられる
が、本事業における中国での情報の伝達過程を見ていくと、地方紙が記事として取り上げることの重要性を
再認識できる。ネット上の検索サイト対策も必要だが、地元のマスメディアに取材されることも重要である
ことが分かった。だが、日本での記事の内容が、中国では異なって伝えられる場合があることにも注意が必要
であろう。

図 4-9 以降は、それぞれのホームページの画像である。



出所) http://www.47news.jp/localnews/kagoshima/2011/05/post_20110517121459.html (2012年1月27日閲覧)

図 4-9 47NEWS のホームページ

¹³ URL は、<http://www.47news.jp/>。

中国留学生推出独特创意宣

www.jnocnews.jp/news/show.aspx?id=45829

日本新华侨报网
HTTP://WWW.JNOCNEWS.JP

JOB 创业 法务事务所 各种活动 电子报
工作任你选 创业新干线

日本新闻 日本华人新闻 华人赴日旅游 华人在日购房 中国籍 | 日本籍 | 收藏本站

日本房地产新闻 | 中国房地产新闻 | 房地产评论 | 房地产咨询

新闻搜索 GO

HOME >> 华人赴日旅游攻略 >> 旅游资讯

打印 关闭窗口

中国留学生推出独特创意宣传鹿儿岛

来源: 日本新华侨报网 发布时间: 2011/05/17 16:24:36



(鹿儿岛的绿茶)

近日在日本鹿儿岛县留学的几名中国留学生利用中文微博推出了“鹿儿岛的魅力”专题, 据说这些中国留学生此举是协助鹿儿岛吸引中国和中国台湾游客到鹿儿岛旅游的尝试。

这个以介绍鹿儿岛为专题的中国留学生微博是由几名女生发起并制作的。6月8日, 鹿儿岛县将在县内举办第十九届全国商店街女店主交流研讨会, 这几名中国女留学生将在研讨会上向到会的女店主们宣讲自己的宣传计划。

中国留学生们利用微博所具有的“短”、“频”、“快”的特色, 以短小精悍的文字和精美的照片向微博上的其他网友宣传鹿儿岛风光, 创意非常独特, 而且宣传渠道也为旅游行业的宣传形式中仅见。

负责制作这个微博的几名中国留学生目前就读于鹿儿岛县立短期大学。当她们把自己的创意拿给学校商务经济学科的福田忠弘副教授时, 一下便得到了福田忠弘的支持, 并主动请缨, 出面联络了来自中国南京农业大学的3名交换留学生和另外20名二年级学生, 一起来分担制作这个微博网页的工作。

鹿儿岛县旅游管理部门也为这几名中国留学生打开方便之门, 请她们在县内各处旅游景点游览观光——当然, 交换的礼物便是她们必须将自己的旅游感受和照片“晒”到这个微博上, 让尽可能的人了解鹿儿岛。微博的页面非

出所) <http://www.jnocnews.jp/news/show.aspx?id=45829> (2012年1月27日閲覧)

图 4-10 日本新华侨报网的ホームページ

去遊道日本-766jp旅行网-E x

www.766jp.com/infos/447

766

HOME VIEW TRAVEL FOOD HOTEL SHOPPING CULTURE
 首页 景点 旅行 美食 酒店 购物 文化

当前位置: 首页 > 新闻资讯 > 在日中国留学生首创利用微博宣传鹿儿岛旅游

摘要: 近日, 在日本鹿儿岛县留学的几名中国留学生利用中文微博推出了“鹿儿岛的魅力”专题, 引发了中日两国许多人的关注。



冬日的鹿儿岛

【日本旅游资讯】根据日本媒体的报道, 几名在日本鹿儿岛县留学的中国学生利用微博做起了鹿儿岛的旅游宣传工作。他们推出的“鹿儿岛的魅力”主题, 引发了中日两国许多人的关注。

负责制作这个微博的几名中国留学生目前正就读于鹿儿岛县立短期大学。当她们把自己的创意拿给学校商务经济学科的福田忠弘副教授时, 一下便得到了福田忠弘的支持, 并主动请缨, 出面联络了来自中国南京农业大学的3名交换留学生和另外20名二年级学生, 一起来分担制作这个微博网页的工作。

中国留学生们利用微博所具有的“短”、“频”、“快”的特色, 以短小精练的文字和精美的照片向微博上的其他网友宣传鹿儿岛风光, 创意非常独特, 而且宣传渠道也为旅游行业的宣传形式中仅见。

鹿儿岛县旅游管理部门也为这几名中国留学生打开方便之门, 请她们在县内各处旅游景点游览观光当然, 交换的条件便是她们必须将自己的旅游感受和照片“晒”到这个微博上, 让尽量多的人了解鹿儿岛。微博的题目非常醒目“中国留学生眼中的鹿儿岛”。她们直率地在微博中各抒己见, 在微博上直抒胸臆, 为微博上的网友们以近距离的视角展示鹿儿岛的风光。

在几名留学生和其他同学的努力下, 这个微博的人气大增, 上面不仅留下中国同学的足迹, 也吸引了不少日本网友的关注; 微博里既有中国同学的旅游感受, 也有日本网友的评论和补

见证

体验日

迪斯尼
富士急
大阪游
台场宿
东京後

特色



出所) <http://www.766jp.com/infos/447> (2012年1月27日閲覧)

图 4-11 観光サイトのホームページ



出所) <http://www.gotojp.net/bbs/showtopic-53147.aspx> (2012年1月27日閲覧)

图 4-12 中国の留学紹介サイト

資料 4-2 中国で取り上げられたサイト一覧(2011年12月22日作成)

① ニュース(情報)サイト

- 1 中国新闻网
<http://www.chinanews.com/lxsh/2011/05-17/3046618.shtml>
- 2 网易
<http://news.163.com/11/0517/14/748VRPKD00014JB6.html>
- 3 中国网络电视台 CNTV
<http://news.cntv.cn/20110517/111669.shtml>
- 4 凤凰网
http://news.ifeng.com/gundong/detail_2011_05/17/6445605_0.shtml
- 5 新浪网
<http://news.sina.com.cn/o/2011-05-17/142022479999.shtml>
- 6 大洋网
http://www.dayoo.com/roll/201105/29/10000307_104270842.htm
- 7 和讯网
<http://news.hexun.com/2011-05-17/129688656.html>
- 8 搜狐新闻
<http://news.sohu.com/20110517/n307698037.shtml>
- 9 日本新华侨报网
<http://www.jnocnews.jp/news/show.aspx?id=45829>
- 10 中国网新闻中心
http://news.china.com.cn/rollnews/2011-05/17/content_7861737.htm
- 11 滚动频道首页-搜狐
<http://roll.sohu.com/20110517/n307714217.shtml>
- 12 新浪城市频道_新浪网
<http://city.sina.com.cn/travel/t/2011-05-18/113517876.html>
- 13 华龙网
http://news.cqnews.net/html/2011-05/17/content_6367747.htm
- 14 青岛新闻
http://news.bandao.cn/news_html/201105/20110517/news_20110517_1307383.shtml
- 15 推优网
<http://www.ttuu.com/info-42740.html>
- 16 中搜论坛
<http://bbs.zhongsou.com/3/20110517/1300327.html>
- 17 体坛网
<http://news.titan24.com/wanxiang/2011-05-17/132997.html>
- 18 东莞日报网
<http://www.dw27.com/article.asp?id=5077>
- 19 厦门新闻
<http://news.xmfc.com/html/110517/6J94711517145914.html>
- 20 阿里中国网
<http://alicn.com/Article/Print.asp?ID=241081>
- 21 中国城市运营网
<http://www.21city.org/view-6683-1.html>
- 22 天津创意产业网
<http://www.leogroup.com.cn/viewnews-2469.html>
- 23 永州在线
<http://www.yz0746.com/?action-viewnews-itemid-1575>
- 24 宿迁网
<http://www.suqian.cm/a/20110517/56718.htm>

② 観光サイト

- 1 去遊日本 766jp
<http://www.766jp.com/infos/447>
- 2 观光资讯
<http://www.jpyou.com/blogs/h10997182-i6061.html>
- 3 中国自驾车旅游联盟网
<http://www.chinazjy.com/201111/33467.html>
- 4 西安商促网
<http://xian.shangcuwang.com/static/articles/lvyou/2011/05/article-3203.html>
- 5 腾讯旅游频道_腾讯网
<http://www.itravelqq.com/2011/0517/141583.html>

6 日本通

<http://www.517japan.com/viewnews-27114.html>

7 日本呦

<http://japan.etpass.com/blogs/h10997182-i6061.html>

8 中易旅游

<http://www.ly333.cn/article/view.aspx?id=24140>

9 幻途旅行网

<http://www.huantu.com/news/60760/>

10 旅游圈首页

<http://www.ly-q.com/index.php?m=content&c=index&a=show&catid=7&id=141583>

③ 留学紹介(教育)サイト

1 LiuXue 中国留学网

http://www.liuxue.net/news/urls/news/liuxue_news_76171.shtml

2 中国高等教育学生信息网

<http://www.chsi.com.cn/chuguo/jlhz/whxs/201105/20110518/205547491.html>

3 翔飞日本留学网

<http://www.gotajp.net/bbs/showtopic-53147.aspx>

4 114 留学网

<http://www.liuxue114.com/Changshi/a/59013.html>

5 江苏招生考试网

<http://www.js-edu.cn/Html/201105/17/20110517165802.htm>

6 出国留学频道

http://liuxue.eol.cn/liu_xue_kuai_xun_3291/20110517/t20110517_616974.shtml

7 出国留学网

<http://www.liuxue86.com/a/20110517/229923.html>

8 欢迎光临海外人才网

<http://www.hwrcw.com/infomation/content.asp?id=14525&lmid=A0201>

9 留学_高分网

<http://www.gaofen.com/article/118565.htm>

10 世界教育信息网

http://www.wei.moe.edu.cn/c116/0518/content_051344318a13443p1.html

11 出国留学网

<http://cg.yuloo.com/rihan/news/608084.shtml>

12 国际教育在线

<http://ieol.chsi.com.cn/chuguo/jlhz/whxs/201105/20110518/205547491.html>

13 天健网 出国留学频道

http://edu.runsky.com/2011-05/18/content_3905016.htm

14 湖南教育网留学频道

<http://liuxue.hnedu.cn/show/6991.html>

15 前程日本-日本留学

<http://www.qianchengriben.com/news.html/news-1282079.html>

16 留学网-快訊

http://news.abroadstar.com/liuxuekuai_xun/2011/0522/145688.html

17 龙马留学

http://tjlongma.com/Country_NewsShow.asp?id=5423

18 蔚蓝网

<http://www.weilanhome.com/news/2011/2011151819135622.html>

④ ブログサイト

1 黒木真二_新浪博客

http://blog.sina.com.cn/s/blog_622bbb2a0100t1a8.html

2 哇塞团购网- wasailp118 - 网易博客

<http://wasailp118.blog.163.com/blog/static/18531021520114180114981/>

3 欲望日本 自助式日本代购网 交流论坛 - Powered by Discuz!

<http://www.desirejp.com/forum/redirect.php?tid=9838&goto=lastpost>

4 鑫家网

<http://www.shinjia.com/bbs/dispbbs.asp?boardid=18&Id=81>

5 visitcontent 的个人空间

<http://city.etpass.com:8300/space/?305/log/1576>

【編集】

鹿児島ピカリン☆プロジェクト

【執筆者】

岡村俊彦（鹿児島県立短期大学 商経学科 教授）

福田忠弘（鹿児島県立短期大学 商経学科 准教授）

楊虹（鹿児島県立短期大学 文学科 准教授）

（50音順）

【謝辞】

本事業は、資金も経験も何もないままですスタートしましたが、これまで多くの方々にお世話になりました。特に、南九州市観光協会さんからは「雑誌記者等招聘事業」にご招待いただき、多くの観光地をご紹介いただきました。指宿白水館さんには5名の学生を受け入れていただき、最高級の部屋をご提供いただくとともに、日本の心とも言えるべき「おもてなしの心」を学ばせていただきました。また本学の種村完司学長にも物心ともに大きな支援をいただきました。皆様方のご協力に、どれだけ勇気づけられたか分かりません。ここに記して、感謝申し上げます。

「鹿児島ピカリン☆プロジェクト」一同より

鹿児島県立短期大学 地域研究所叢書

日中両言語ブログによる鹿児島観光情報発信

「鹿児島ピカリン☆プロジェクト」中間報告書

平成24年3月31日発行

住所 〒890-0005

鹿児島県鹿児島市下伊敷1-52-1 福田研究室気付

鹿児島ピカリン☆プロジェクト

電話 099-220-1111（内線360）

電子メール fukuda@k-kentan.ac.jp

ブログURL <http://kagochina3.sblo.jp/>

表紙デザイン：米山 喜美子（鹿児島県立短期大学 文学科1年）

